

令和元年度京都市小規模法人のネットワーク化による協働推進事業

社会福祉法人による地域公益活動の実践と 福祉・介護人材の確保・定着の共同事業

報 告 書

令和2年4月

社会福祉法人 リガーレ暮らしの架け橋

令和元年度京都市「小規模法人のネットワーク化による協働推進事業」 ～社会福祉法人による地域公益活動の実践と福祉・介護人材の確保・定着の共同事業～

はじめに

2019年12月の厚生労働省「地域共生社会推進検討会」最終報告書では、従来の福祉の年齢別・障害種別など個人の属性を抜き出して対象を選別してきた縦割りであったものを超えようという提言を行っている。

社会福祉法人グループ・リガーレ（以下、リガーレグループ）は参加する法人が特別養護老人ホームなど高齢者福祉を営む共通の経営基盤を持ち、一方、それぞれ異なる地域に存在する法人のグループという特徴を有している。リガーレグループは、法人が所在するそれぞれの地域において、地域に密着した介護・福祉拠点の展開を目的に2010年に京都市内の3法人により創設され、高齢期に誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることを支える伴走型支援をめざしてきたものである。

2012年、グループ本部「地域密着型総合ケアセンターきたおおじ」開設に前後して新たに4法人が加わり7法人によるグループとなり、2017年にグループ本部「リガーレ暮らしの架け橋」が社会福祉法人認可されたことにより、本部を含め京都市内5法人と市外3法人の合計8法人で構成して現在に至っている。

冒頭に述べた地域共生社会の創出を目指す縦割りの福祉を超えるべき課題に向けた活動であるが、生活圏域に地域に密着した拠点を設け高齢者と向き合うことで、職員はそれぞれの高齢者から紡ぎだされる地域との多様な関係性に当たり前のように向き合うことになり、ひいては具体的な地域づくりに主体的に関わることが始まる。今年度グループ法人による地域での具体的活動は、「学校・保育園などとの交流」「災害支援」「こども食堂・サロンなど居場所提供、集いの主催など」「オレンジカフェ、認知症高齢者社会参加・就労など支援」「公園体操など地域づくり」「介護教室など地域向けセミナー開催」「消防団、防犯活動などへの参加」「配食、高齢者住まい・生活支援事業など制度外福祉活動の創出」「車いす・車両等貸出・会議室貸出など地域支援」「地域経済への貢献（バイオマスなど）」「地域イベントへの協力（運動会、敬老会、お祭りなど）」など様々な活動を行っている。このような活動をグループで共有すると同時に、グループならではの新たな活動企画なども話し合われた。

このように、リガーレグループでは今年度も時代が求める事業の展開と同時に、重層的な統一研修など、暮らしの継続性を支援する高齢者ケアの専門性の獲得やチームマネジメントの学習、そしてグループ間での人事交流の試行など専門分野でのキャリアデザインを描く仕組みづくりの工夫と、それらの魅力をICT媒体などで発信するツールの開発などを通じて人材の確保・育成に取り組んできた。とりわけ2019年度にはグループに人材確保専任職員を配置し様々な活動を拡大する新たな試みも行ってきた。

令和元年度京都市「小規模法人のネットワーク化による協働推進事業」
「社会福祉法人による地域公益活動の実践と福祉・介護人材の確保・定着の共同事業」

目次

第1章	令和元年度の活動	1
第2章	地域公益活動の取組み、地域公益的取組に関するヒアリングシート	8
第3章	リガーレ統一研修	34
第4章	スーパーバイザーによる巡回事業	40
第5章	リガーレ人材確保共同事業	43
第6章	給与・労働条件一元化への取組み	77
第7章	労働環境の向上に向けた取組み—法人間の人事交流による試行—	102

第1章 令和元年度の活動

1. 活動の概要

平成30年度には、令和元年度も引き続き社会福祉法人が地域で求められる役割を果たすために福祉・介護人材の確保・定着をベースとした共同事業においては、プラットホームにあたる「地域公益的取組委員会」では社会福祉法人グループの地域に貢献できる活動の現状の整理と評価を行い、グループとして地域に貢献できる活動について協議を行った。

また、今年度の特長としては、人材確保部門に専任者を配置して、年間を通じて人材確保の活動を精力的に行い、研修・スーパーバイズ事業に続く事業部門として確立する足場となった。

会議・委員会活動としては、従来あった「広報委員会」「リクルーター会議」「インターンシップバスツアー企画会議」は、人材確保専任者が事務局となり「人材担当者会議」を設置し「人材確保コア会議」「リクルーター会議」の中に整理された。「給与等検討委員会」では、平成30年度提案した「リガーレグループ標準モデル」を軸に議論を重ねた。成果として、人材共同募集を行うにあたり給与や待遇を含む新卒者向けリガーレグループ募集要項を作成し運用を進めることができた。

また、今後のグループとしての活動の拠点として、社会福祉法人グループ・リガーレ、グループ本部事務所を設置することができた。

新年度に向けて、代表者、責任者、リクルーターを含むグループ全体の職員と人材育成部門・人材確保部門の3名の専任職員でもって人材の確保・定着の取組みを推進する体制づくりを推進できた年度となった。

社会福祉法人グループ・リガーレ
協働推進事業実施体制



会議・委員会活動について

＜地域公益的取組委員会（プラットホーム会議）＞

委員	福) 端山園 理事長	山内 幸雄
委員	福) 北桑会 理事長	溝口 武美
委員	福) 緑寿会 理事長	吉澤 英樹
委員	福) 松光会 施設長	奥本 善裕
委員	福) はしうど福祉会 施設長	吉岡 年光
委員	福) リガール暮らしの架け橋 理事長	山田 尋志
オブザーバー	福) 六心会 理事長	堤 洋三
オブザーバー	福) 宏仁会 理事長	長根 祐子

*地域公益的取組委員会（プラットホーム会議）開催

第1回	平成31年 4月30日（火）	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第2回	令和 元年 5月 2日（木）	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第3回	令和 元年 5月28日（火）	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第4回	令和 元年11月29日（金）	地域密着型総合恵かセンターきたおおじ
第5回	令和 2年 1月14日（火）	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第6回	令和 2年 2月14日（金）	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ

＜研修企画委員会＞

委員	福) 端山園 ヴィラ端山 業務部長	百目鬼 浩子
委員	福) 北桑会 美山やすらぎホーム 施設長	視淵 八重子
委員	福) 緑寿会 山科苑 施設長	岸田 光彦
委員	福) 松光会 静原寮 施設部長	阪田 耕三
委員	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ 施設長	杉原 優子
委員	人材・開発研究センター	伊東 典子
委員	人材・開発研究センター	西村 優子
委員	人材・開発研究センター	村田 麻起子
オブザーバー	福) はしうど福祉会	戸石 和子
オブザーバー	福) 六心会	愛須 和美

*研修企画委員会の開催

第1回	平成31年 4月16日(火)	地域密着型ケアセンターおんまえどおり
第2回	令和 元年 5月20日(月)	ヴィラ端山 地域サロン
第3回	令和 元年 6月25日(火)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第4回	令和 元年 7月23日(火)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第5回	令和 元年 8月30日(金)	地域密着型ケアセンターおんまえどおり
第6回	令和 元年 9月23日(月)	六心会 きいいと地域サロン
第7回	令和 元年10月21日(月)	介護老人福祉施設 しゅうざん
第8回	令和 元年12月 3日(火)	ヴィラ端山 地域サロン
第9回	令和 元年12月25日(水)	地域密着型ケアセンターおんまえどおり
第10回	令和 2年 1月28日(火)	ヴィラ端山 地域サロン
第11回	令和 2年 2月19日(水)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第12回	令和 2年 3月25日(水)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ

<リガーレ人材担当者会議>

委員	福) 端山園 総務部長	星野 孝典
委員	福) 北桑会 法人本部	大八木寿樹
委員	福) 緑寿会 法人本部長	吉澤 英樹
委員	福) はしうど福祉会 副施設長	戸石 和子
委員	福) リガーレ暮らしの架け橋 統括施設長	杉原 優子
オブザーバー	福) 六心会 副施設長	愛須 和美
オブザーバー	福) 宏仁会 法人本部	田中 芙美
事務局	人材・開発研究センター マネージャー	伊東 典子
事務局	人材・開発研究センター	西村 翼

*リガーレ人材担当者会議の開催

第1回	令和 元年 5月12日(月)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第2回	令和 元年 7月18日(月)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第3回	令和 元年 8月13日(火)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第4回	令和 元年 9月17日(火)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第5回	令和 元年10月31日(木)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第6回	令和 元年12月 3日(火)	ヴィラ端山 地域サロン
第7回	令和 2年 1月28日(火)	ヴィラ端山 地域サロン
第8回	令和 2年 3月10日(火)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ

<リガーレホームページプロジェクト／会議の開催>

目的：最新の情報を、随時、学生に向けて配信する。 ①学生に向けた広報のあり方の検討 ②ホームページ・SNSに新卒採用ページを作成		
メンバー：(六心会) 堤 洋三、愛須 和美、林 哲正 (リガーレ暮らしの架け橋) 杉原 優子 (大学生) 西村 翼 (事務局) 伊東 典子		
第1回	令和元年6月1日(土)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第2回	令和元年6月14日(金)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
Web 打ち合わせ	令和元年6月19日(水)	地域密着型特別養護老人ホームきいと
第3回	令和元年7月11日(木)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ

<人材確保コアミーティング／会議の開催>

目的：人材確保・広報に関する協議の方向性の検討			
メンバー：(六心会) 堤 洋三、愛須 和美 (リガーレ暮らしの架け橋) 杉原 優子 (事務局) 伊東 典子			
第1回	令和元年7月26日(金)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ	インターンシップ年間実施計画 他
第2回	令和元年8月8日(木)	地域密着型特別養護老人ホームきいと	(株)学情プレゼンテーション 他
第3回	令和元年9月4日(水)	地域密着型ケアセンターおんまえどおり	あさがくナビ出展検討 他
第4回	令和元年9月17日(火)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ	FACEtoFUKUSHI 出展検討 他
第5回	令和元年12月23日(月)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ	COCOLO4号企画
第6回	令和2年2月26日(水)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ	就職フェア中止の代替フェア出展検討

<リクルーター会議>

2020 第2期 メンバー	福) 端山園	椿 織恵
	福) 北桑会	小倉 祥平
	福) 緑寿会	吉田 悠人
	福) 松光会	川隅 大樹
	福) はしうど福祉会	山本 要
	福) リガーレ暮らしの架け橋	川口 まゆみ
	福) リガーレ暮らしの架け橋	深田 真帆 ★
	福) リガーレ暮らしの架け橋	坂口 翔悟
	福) リガーレ暮らしの架け橋	杉原 優子
	福) リガーレ暮らしの架け橋 人材・開発研究センター	伊東 典子
2020 オブザーバー	福) 六心会	南出 浩次
	福) 六心会	長江 諒
	福) 宏仁会	長根 知加
2021 第3期 メンバー	福) 端山園	藤原 航
	福) 北桑会	山下 太樹
	福) 緑寿会	関戸 康太 ★
	福) はしうど福祉会	明尾 咲良
	福) リガーレ暮らしの架け橋	竹嶋 大河
	福) リガーレ暮らしの架け橋	小田原 彩華
	福) リガーレ暮らしの架け橋	林 佑香
	福) リガーレ暮らしの架け橋	早川 葵
	福) リガーレ暮らしの架け橋	玉岡 龍之介
	福) リガーレ暮らしの架け橋	島野 莉奈
	福) リガーレ暮らしの架け橋	佐田 紀子
	福) リガーレ暮らしの架け橋	杉原 優子
福) リガーレ暮らしの架け橋 人材・開発研究センター	伊東 典子	
2021 オブザーバー	福) 六心会	矢守 優希菜
	福) 六心会	愛須 和美
	福) 宏仁会	長根 知加
	立命館大学4回生	西村 翼

2020年採用対象

*リクルーター会議開催

第9回	平成31年 4月12日(金)	ベーコンラボ京都
第10回	令和 元年 5月10日(金)	ベーコンラボ京都
第11回	令和 元年 6月 5日(水)	地域密着型ケアセンターおんまえどおり

*おもてなしバスツアー

京都市内コース	平成31年 4月20日(土)
京都北部コース	令和 元年 5月18日(土)

2021年採用対象

*リクルーター会議開催

第1回	令和 元年 8月 5日(水)	地域密着型ケアセンターおんまえどおり
第2回	令和 元年 9月 4日(水)	地域密着型ケアセンターおんまえどおり
第3回	令和 元年10月 1日(火)	地域密着型ケアセンターおんまえどおり
第4回	令和 元年11月14日(火)	地域密着型ケアセンターおんまえどおり
第5回	令和 元年12月10日(火)	地域密着型ケアセンターおんまえどおり
第6回	令和 2年 2月4日(火)	地域密着型ケアセンターおんまえどおり
第7回	令和 2年 3月 4日(水)	地域密着型ケアセンターおんまえどおり

*おもてなしバスツアー

北部・京北コース	令和 元年10月19日(土)
京滋コース	令和 元年11月 2日(土)
京都市内コース	令和 元年11月30日(土)

*就職フェア出展

インターンシップ in 京都	令和 元年12月22日(日)	京都産業会館ホール
FUKUSHI meets! 京都会場	令和 2年 2月26日(水) 中止	京都産業会館ホール
FUKUSHI meets! 大阪会場	令和 2年 3月16日(水) 中止	コングレコンベンション センター

※FUKUSHI meets! 京都会場、大阪会場は感染症対策の影響にて中止となった。

<リガーレ給与等検討委員会>

委員長	社会福祉法人 緑寿会 理事長	吉澤 英樹
委員	社会福祉法人 六心会 理事長	堤 洋三
委員	社会福祉法人 北桑会 副理事長	大川 眞樹
委員	社会福祉法人 はしうど福祉会 いちがお園施設長	吉岡 年光
委員	社会福祉法人 端山園 総務部長	星野 孝典
委員	社会福祉法人 松光会 総務部長	石本 智裕
委員	社会福祉法人 宏仁会 清風荘うらやす 施設長	長根 知加
委員	社会福祉法人 宏仁会 法人本部	熊谷 祥
委員	社会福祉法人 リガーレ暮らしの架け橋 理事長	山田 尋志
委員	社会福祉法人 リガーレ暮らしの架け橋 マネージャー	小林 慶三
外部委員	株式会社 エイデル研究所	小林 雄二郎
オブザーバー	社会福祉法人 リガーレ暮らしの架け橋 マネージャー	伊東 典子

*委員会開催

第1回	令和 元年 7月31日(水)	地域密着型ケアセンターおんまえどおり
第2回	令和 元年 8月13日(火)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第3回	令和 元年 9月20日(金)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第4回	令和 元年10月24日(木)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第5回	令和 元年11月18日(月)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第6回	令和 元年12月16日(木)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第7回	令和 2年 1月16日(木)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第8回	令和 2年 2月26日(水)	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ

第2章 地域公益活動の取組み、地域公益的取組に関するヒアリングシート

1. 現状

(1) 各法人における活動

社会福祉法人による「地域における公益的な取組」については、改正社会福祉法第24条第2項の規定に基づき、平成28年4月から、当該取組の実施が社会福祉法人の責務として位置付けられ、リガール各法人においても所在する各地域において当該取組を推進してきた。

前年度の共同推進事業では、各法人の取組現状を再整理、その上で地域課題の把握方法の確認と検証に焦点を絞ることで、新しい地域貢献や公益的取組の試行へつなげることを目的とし、今年度においては各法人の取組の進化、深化を共有し、更なる取組の推進を目的とした。

- 参加法人が現在実施している地域貢献事業の実施内容について互いに報告し、その意義を確認・協議する。
- 各法人が既に実施している上記事業について、課題及び見直しの余地について協議すると共に優れた実践を自法人に取り入れる可能性について話しあう。
- 各法人が所在する生活圏域等の地域課題を把握するための方法について学びあう。
- 把握した地域課題の情報交換を行い、課題の解決に向けて可能な活動を協議する。

2. 委員会等の活動

(1) 委員会の開催

各法人が実施している地域貢献の活動共有等のため下記日程にて委員会を開催した。

回	日時	会場
第1回	令和元 5月 28日	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第2回	令和元年 11月 29日	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第3回	令和2年 1月 14日	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第4回	令和2年 2月 11日	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第5回	令和2年年 2月 14日	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
第6回	令和2年年 3月 31日	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ

(2) ヒアリングシート作成等

各法人の取組状況などをより深く共有するため、下記7項目にてシートを記載し、各法人が持ち寄った（詳細は添付資料を参照）。

- 主な取り組み名称と内容等

- 頻度
- 把握している地域課題（課題把握の経路）
- 地域での協力者や外部機関などの連携先
- 発生するコストや資金源と概算金額など
- 仕組み工夫など
- その他 考えられる成果、前年度以降の展開、新たに見えてきた課題など

3. まとめ、今後の課題

各法人はその歴史的背景や成り立ち、地域の情勢や人口構成などが異なるが、それぞれの事情に応じて地域で公益的な取組を推進している。前年度の委員会では、各法人の各地域での活動内容や地域との関わり方などを共有し、今年度はその取組がどのように進み、そして深まったのかを確認した。

リガーレの参画法人は創設からの年数が比較的長く、法人・施設経営者・幹部と地域住民がお互い顔を知った上で緩やかな関係性が成り立っており、年間を通して開催される地域イベントや催事などで地域の自治会や市民団体との相互協力が成立している。

特徴的だったのは、法人で地域包括支援センターを受託しコミュニティ・ソーシャル・ワーカーを抱える法人、或いは専任・兼任を問わないが「地域支援担当」を配置している法人の取組が充実傾向にあることである（具体的な活動内容は添付資料参照）。

その理由として、地域とのチャンネルが法人組織の定点として常時開かれている、地域住民から見て相談しやすい、気軽に話しやすい組織になっている、顔の見える関係が構築されている等が考えられる。

その結果、地域課題の把握等のアセスメント、解決の糸口を探るための住民との対話、地域活動の素案づくり、活動目的の明確化、関係者会議等集まる場の調整、課題の改善提案、状況に応じてPDCAをしっかりと回すなど、安定した視点で地域を見据え思考するコミュニティ・ソーシャル・ワーカーならではの視点が法人の地域公益的取組の好循環を生んでいる。

国内の福祉・支援ニーズがますます複雑化・複合化する中で、地域課題解決へ向けて社会福祉法人が担う役割や住民からの期待はますます高まっている。

リガーレグループとしては今後、参画する各法人が地域公益的活動を主として担うコミュニティ・ソーシャル・ワーカー等人材を恒常的に配置し、各法人の地域公益的活動が地域課題解決へ歩み出すよう、様々な仕組みを共有し連携を更に強化したい。

法人名	主な取り組み名称と内容等	頻度	把握している地域課題 (課題把握の経路)
端山園	食育で育てた野菜の販売	年3~4回	
端山園	コンサート コーヒーサロン	毎日木曜日 PM14:00~ PM15:00	近隣の団地住民の高齢化にて、自治会活動が中止となった。
端山園	地域の保育園との交流	年3回	核家族が多く老人とふれあう機会が少ない。
端山園	夏祭り(ヴィラ端山)	年1回 PM17:00~PM20:00	
端山園 いまく まの	「いまくまのサロン」 今熊野学区でのサロン開設を地域包括支援センターに提案し、サロン開設準備を協同。開設後は職員をサロンに派遣している。	月1回 第1土曜日 10時から12時	今熊野学区は高齢化により商店街がシャッター通りになっており、これまで運営されていた集いの場が閉鎖されサロンがない地区になった。 (京都市介護ケア推進課)
端山園 いまく まの	「地域交流サロン」 東山区居場所づくり事業に参画し、いまくまのフロアで地域の方が参加できる催しを開催している。	2か月に1回 14時から15時頃	地域の方が気軽に足を運び交流できる地域の居場所がない地域。 (地域支え合い活動創出コーディネーター)
端山園 いまく まの	「京都女子大学体験学習」 京都女子大学家政学部生活福祉学科の体験授業の場として、各ユニットの利用者や職員との交流の場を提供している。	1か月に1回 13:15~14:25	福祉を学んでいる学生だが、実際に高齢者と接する機会のない学生が多く、異世代の交流の場が少ない。 (京都女子大学教授から)
端山園 いまく まの	修道学区の運動会にスタッフが地域住民(町内会住民)として参加し、準備委員会から関わっている。	年1回(準備委員会年2回程度)	事業所がある太閤垣町は、世帯数も少なく若い世代の住民が少ないため、毎年不参加であった。 (運営推進会議での情報提供)
端山園 いまく まの	「修道学区防災訓練」 地域の防災訓練に太閤垣町代表として参加している。	年1回	事業所がある太閤垣町は、世帯数も少なく若い世代の住民が少ないため、毎年不参加であった。 (運営推進会議での情報提供)
端山園 いまく まの	「地域支え合い活動」研修修了者の活動のフィールドとしていまくまのの場を提供。 まずは「おそうじ隊」として施設の掃除から始める。	計画中 2回/月程度	「地域支え合い活動」研修修了者は多く存在するが、どこでどんな活動をすればよいかわからないため活動に繋がっていない。(運営推進会議・地域ケア会議での情報提供)
	地域イベント参加 ・醍醐福祉餅つき、年1回12月下旬 ・醍醐福祉バザー、年1回12月 ・醍醐学区敬老会、年1回 ・桜祭り、年1回 ・醍醐自治町内会夏祭り、年1回 ・福祉避難所 ・端山の丘マルシェ、年1回 ・醍醐自治町内会夏祭り、年1回		

地域での協力者や外部機関などの連携先	発生するコストや資金源と概算金額など	仕組み工夫など、その他	考えられる成果等
八幡農業法人、等法人職員		利用者、地域住民から注文を受ける	
ピラを近隣へ配っている。	コーヒーサロンで一人100円いただいたお金でまわしている。	地域の方との会話、地域の方も工作等を持ってこられ、皆さんで、工作づくり等もされる。	地域の方との交流、顔見知りになる。
中臣保育園の先生		利用者と子供達の年齢差があるがお互いが手先を使って工作をしている、頭を使って考える遊びやゲームを行っている。	
家族、ボランティア、職員	飲食を無料提供にて持ち出している。		年々参加者増えている。
洛東地域包括支援センター 東山区健康推進センター 府立医科大学看護学科	担当職員の超過勤務手当1時間程度	東山区健康推進センターと協力し、血圧測定など地域高齢者の健康に関するオプションを付けることで高齢者の参加に繋げている。	毎回、同じ時間・場所・顔ぶれで開催することで地域の高齢者が立ち寄り易くなり外出のきっかけになった方が出来た。特に、男性の閉じこもり予防に繋がった。
東山区社会福祉協議会	東山区社会福祉協議会より年1万円の助成あり。	事業所で地域の人に参加できる催しを開催し、案内のチラシを社協や地域包括、地域のカルチャー教室などで配布し広報。また、外出しにくい方には事業所職員が車で送迎を行っている。	事業所の事を知ってもらうことで認知症や介護が必要になった時に相談できる場所があることが分かってもらえ地域住民の安心に繋ぐことが出来る。
京都女子大学	コスト発生はない	ユニットでの交流の前に15分程度、施設の概要と事例を交えてオリエンテーションを行っている。交流後には、学生の感想や学んだことなどの振り返りの発表の時間を設けている。そのファシリテーターを学生と年齢に近い職員が担う様にしている。	高齢者分野以外を学んでいる学生も交流することで認知症の人への考え方が変わり、人の生活という視点で捉えることが出来た学生も多くいる。また、数人の学生はこれを機会に介護職としてアルバイト勤務をするようになった。
修道学区体育振興会 大閣坦町会長 東山区社会福祉協議会会長 自治連合会	担当職員の超過勤務手当2時間程度	運営推進会議等を通じて、地域組織の役員と連携を密にとる異様にしている。準備段階から職員配置を多くとり体制づくりに努力している。	準備段階から地域の人たちと一緒に動くことでコミュニケーションが深まり信頼関係を築くことが出来る。運動会当日、利用者と一緒に参加することで事業所への理解が広まる。
修道学区自主防災会	担当職員の超過勤務手当2時間程度	運営推進会議等の場で地域役員と連携し、事業所が地域に対して担える役割について協議している。	地域の防災活動に参加している事で、有事の時に当事業所が地域のために活動できることが周知され地域の信頼を得ることが出来る。
地域支え合い活動創出コーディネーター（社協）	最初は無償のボランティアで始まるが、活動内容の変化に合わせて有償にする事もある。活動内容によっては施設経費の可能性もあり。	地域支え合い活動創出コーディネーターとの密な連携と、運営推進会議に当コーディネーターが参加し地域の役員や利用者家族と一緒に活動内容を協議する。	地域住民の社会参加により地域の力を引き出すことが期待できる。また、活動のフィールドとして場の提供をすることで地域住民との関係性や信頼性の強化に繋がる。「おそうじ隊」の活動は「自分たち地域の施設」という意識が強まることが期待できる。

法人名	主な取り組み名称と内容等	頻度	把握している地域課題 (課題把握の経路)
宏仁会	① ケア付き青森ねぶた「じょっぱり隊」(青森市) 全国から参加者、ボランティアを募り、県内の各団体・関係機関の協力のもと、青森ねぶた祭に参加している。(事務局兼実務) ※2006年バリアフリー化推進功労表彰・内閣府特命担当大臣表彰 受章 ※2007年青森県ふれあい活動功労者知事表彰 受章	毎年8月2日～4日 (実行委員会、ボランティア会議などは、4月から始動)	・高齢や障害を理由に、地域活動への参画が困難になっている。 ・地域へ出かけることはあるが、周囲と連携をとる、協力を得る関係性を築けない。 ・同じ境遇の人たちと接する機会が少なく、閉じこもりがちの人がいる。
宏仁会	② ひらない敬老まつり(平内町) 行政改革の一環で事業見直しにより町主催の敬老行事が廃止されたことを受け、地域住民有志によるボランティア組織を結成し、子供から大人までが参加をする「手づくり・住民参加型の敬老まつり」を開催。 ※2008年総務省地域コミュニティ再生事業採択	毎年9月 (実行委員会の会議などは、6月から)	・高齢や交通手段を理由に、地域への外出が困難になっている。 ・行事が廃止されたことで、町内の友人・知人と会する機会が減少している。
宏仁会	③ 地域交流セミナー(浦安市) 福祉施設のもつ介護に関する知識・技術を、広く地域に開放・普及することを目的に平成24年の開所以来開催。施設専門職が講師を務める他、福祉・介護・看護・医学にとどまらず、地域福祉分野の研究者らによるセミナーを開催。	年に10～12回	・在宅介護をしている人が、具体的な介護技術を学んだり質問をしたりという機会がない。 ・同じ課題を持つ人同士、情報共有できる場が少ない。
宏仁会	④ 地域参加型研修の実施(平内町・青森市) 社会福祉法人のノウハウを生かし、法人の職員に加え、地域住人や入居者家族、関係者等を参加対象とした講演会を定期的の実施し、地域の福祉力の底上げと啓発をはかる。	不定期	・福祉施設やサ高住などに入居すると、閉じこもりがちになり、地域住民と交流を持つ機会が少なくなる。 ・自分の身近でほしい情報を得る機会が少ない。
宏仁会	⑤ 福祉避難所の登録(浦安市) 市との協定により、近隣の災害弱者を対象として福祉避難所利用に関する登録をした。		・在宅で生活している要支援・要介護高齢者、障がい者が、災害時に継続的に支援を受けられる環境が少ない。

地域での協力者や外部機関などの連携先	発生するコストや資金源と概算金額など	仕組み工夫など、その他	考えられる成果等
<ul style="list-style-type: none"> ・祭の実行委員会・受け入れ団体 ・行政（青森県庁、警察、救急） ・社会福祉協議会 ・地元医療機関・医師会（県・市） ・地元の学校（県立保健大学） ・個人ボランティア ・ボーイスカウト ・交通機関（JR、鉄道、空港） 	<p>（資金源）法人内予算、参加費、寄付</p> <p>（発生コスト）会議費、ボランティア保険、印刷・製本費、交通費（レンタル車両、ガソリン等）、備品費、食費、関係職員の超過勤務手当および地域貢献手当 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局・主要リーダーとなる法人職員と、関係団体（社協、県庁、保健大学）・ボランティアが集まり、情報共有・協議を行う。 ・そのほか協力機関は、参加者情報やおおよそのタイムスケジュールなどを共有し、協力を依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> ・祭の実行委員会等との連携がスムーズになった。 ・交通機関や宿泊施設等のバリアフリーが進んだ。 ・参加者が各地元に戻って、自主活動をするようになった。 ・参加職員同士の連携や法人内での活動が活発化する。
<ul style="list-style-type: none"> ・祭の実行委員会 ・行政（町） ・社会福祉協議会 ・地元学校（県立高校、幼稚園、保育園） ・個人ボランティア ・ボランティアサークル 	<p>（資金源）法人内予算、町からの補助費、寄付</p> <p>（発生コスト）会議費、印刷・製本費、交通費（レンタル車両、ガソリン等）、備品費、食費、関係職員の超過勤務手当および地域貢献手当 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局・主要リーダーとなる法人職員と、関係団体（社協、県庁、保健大学）・ボランティアが集まり、情報共有・協議を行う。 ・そのほか協力機関は、参加者情報やおおよそのタイムスケジュールなどを共有し、協力を依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人と個人ボランティア、ボランティアサークルとの連携が深まった。 ・「ボランティアをやりたい」という参加者の声が出ている。 ・普段接点の少ない住民とも会うことで、新たなニーズや利用者の獲得につながっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員 ・入居者家族 ・ボランティア ・行政（市福祉部、包括） ・社会福祉協議会 	<p>（資金源）法人内予算</p> <p>（発生コスト）講師謝礼、講師交通費、セミナー材料費、印刷製本費 ※施設内開催のため、会場費はかからない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体、個人へ、開催要項を配布し周知を依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した家族から、施設に介護等の相談が来るようになった。 ・行政からの相談が来るようになった。 ・入居者家族が、施設の介護に理解を持つようになった。 ・
<ul style="list-style-type: none"> ・地元開業医 ・民生委員 ・町内会 	<p>（資金源）法人内予算</p> <p>（発生コスト）講師謝礼、印刷製本費</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開業医や町内会との連携、情報共有などを重ねている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の医療・福祉に対する関心が高まっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・地元社協 ・行政（市福祉部） 	<p>（資金源）法人内予算、市補助金</p> <p>（発生コスト）備蓄品の購入費</p>		

法人名	主な取り組み名称と内容等	頻度	把握している地域課題 (課題把握の経路)
緑寿会	5ヶ所の元気倶楽部(健康長寿サロン)の開催の後方支援を実施している。	・火曜日:第1~4週(5週目と祝日は休み) ・水曜日:第1・3週と第2・4週に別会場にて開催。(5週目と祝日は休み) ・木曜日:第2・4週 ・第3土曜日	*単身高齢者が多い。 *日常生活動作が自立している軽度認知症の人がいる。 *制度理解等のない高齢者が多い。 *地域(近隣)での繋がりが希薄である (元気倶楽部参加者やボランティアからの聞き取り等)
緑寿会	オレンジカフェ in やぐらの家の開催をしている。	月1回	*認知症の人、また認知症を疑う人の気楽な相談場所がない。 (参加者、ケアマネジャーより聴取)
緑寿会	元気倶楽部文化班の開催後方支援を実施している。	隔月	*近隣に気軽にリーズナブルに参加できる物作りサロンがない。 (ボランティア、参加者より聴取)
緑寿会	6ヶ所の公園体操の開催後方支援を実施している。	*毎週開催としては、月・木・金・土曜日開催。 *隔週開催として、第1・3週目の土曜日と、第2・4週目の水曜日に開催。	*健康維持のための運動習慣を持ちたい。しかし、ジム等へ行くのは面倒である。 *1人ではできないけれど、誰かが一緒だと運動にも取り組める。 (参加者より聴取)
緑寿会	SunnyHill♡Lunchの開催をしている	年3回程度	*日曜日はイベントが少なく、単身高齢者等は閉じこもり傾向。 *就労している家族の介護相談等が日曜日にできることが欲しい。 *家族も一緒に参加できるイベントが欲しい。 (民生委員・老人福祉員・ケアマネジャーから聴取)
緑寿会	日常生活圏域において、地域の関係団体とともにかぎ預かり事業を実施している。	*かぎ預かりは、必要時。 *かぎ預かり実行委員会 は、年3~4回程度	*単身高齢者が多く、近隣でかぎの預かり合いをしていたが、互いに高齢になり、他者のかぎを預かることが負担になっていきている。 *数日、洗濯物を干しっぱなし等の現象があり、気になる高齢者がいる。

地域での協力者や外部機関などの連携先	発生するコストや資金源と概算金額など	仕組み工夫など、その他	考えられる成果等
<ul style="list-style-type: none"> *京からはじめるいきいき筋トレボランティア（体操指導） *町内会役員 *住民ボランティア *その他のボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> *資金源：京都市健康長寿サロン活動支援 *参加者からの参加費：0～200円（会場によって参加費が異なる） 	<p>プログラムとして、①健康維持のための体操と②楽しみの茶話会を実施。</p> <p>①京都市が育成している京からはじめる筋トレボランティアの起用により、健康・体力維持を図るきっかけづくりができています。</p> <p>②茶話会では、ただお茶を飲むだけでなく、手工芸や、制度のレクチャー等を組み入れ、楽しみだけでなく、日常生活を送るなかで必要な知識の獲得も行っている。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.参加者が互いに声掛けを行い、見守り合える関係の構築。 2.必要な人に早期に支援の手が届く（認知症の早期発見や、介護保険サービス等の関わりが必要な人の早期発見が行える） 3.単身高齢者等が季節感を感じるイベントに参加できる（ひな祭り、クリスマス等） 4.介護保険サービスを利用するほどではないが、他者との交流を求める人の参加する居場所として活用されている。 5.民生委員や老人福祉員が単身高齢者等の訪問をする際に、紹介する社会資源の1つになっている。 6.ケアマネジャーが紹介するインフォーマルサービスとしての役割も担っている。
<ul style="list-style-type: none"> *ケアマネジャーOB *認知症アドバンスサポーター *その他のボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> *資金源：法人からの拠出・参加費：200円 	<ul style="list-style-type: none"> *プログラムとしては、①音楽等のイベントと②茶話会を開催。 ①音楽等のイベントはボランティアにて演奏してくれる人や学生サークルの落語等を依頼。時に、フラワーアレンジメントも実施している。 ②茶話会は、①で実施した内容等をきっかけにして、日常の困りこと等を傾聴する。専門職ボランティアを配置することで、話しやすい環境を設定している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1.認知症の早期発見、専門機関へのつなぎを実施。 2.必要性を感じた参加者の介護保険サービスの調整。 3.認知症を危惧する参加者への予防的な関わり等。
<ul style="list-style-type: none"> *地域住民 	<ul style="list-style-type: none"> *資金源：参加費：200円程度 	<ul style="list-style-type: none"> *体操指導を行っているボランティアを中心とした集まりで、独自にミーティングを実施し、物づくりの内容等を決め、開催している。 *当方の支援としては、会場の提供と、開催日等を広報誌『日ノ岡だより』にて発信する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1.介護保険サービスを利用するほどではないが、他者との交流を求める人の参加する居場所として活用されている。 2.民生委員や老人福祉員が単身高齢者等の訪問をする際に、紹介する社会資源の1つになっている。 3.ケアマネジャーが紹介するインフォーマルサービスとしての役割も担っている。 4.参加者が互いに声掛けを行い、見守り合える関係の構築。
<ul style="list-style-type: none"> *公園体操ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> *資金源：初年度のみに福祉絆支援事業を申請。→のぼりとCDデッキ、CDを購入。 	<ul style="list-style-type: none"> *決定した開催場所にて朝に30分程度の簡単体操を実施する。 *のぼりが出ている日が開催日となっている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1.民生委員や老人福祉員が単身高齢者等の訪問をする際に、紹介する社会資源の1つになっている。 2.ケアマネジャーが紹介するインフォーマルサービスとしての役割も担っている。 3.参加者が互いに声掛けを行い、見守り合える関係の構築。 4.屋外でのぼりを立てて、音楽を鳴らし実施していることもあり、介護予防に対して周囲への発信ができています。
<ul style="list-style-type: none"> *法人スタッフ *近隣事業所の運動指導スタッフ *就労支援事業所B型 *その他ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> *資金源：山科“きずな”支援事業活動助成金 *参加費：300円 	<ul style="list-style-type: none"> *プログラムとして、①専門の体操指導員の体操指導、②就労支援事業所B型のお弁当を食べ、③音楽鑑賞をする。その間に、ご家族等の相談も必要に応じて受ける。 ①近隣事業所の健康運動指導士や理学療法士等の体操指導実施し、自宅での運動習慣のきっかけづくりを行う。 ②就労支援事業所で作るお弁当をみんなで頂く。日常に孤食となっている人が多いため、他者と楽しくいただく機会を提供する。 ③生演奏の音楽を聴き、ゆっくりと過ごす時間を提供する。 *デイサービスのフロアを活用して開催することで、日常生活状況に低下のある参加者も家族と一緒に参加することもできる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1.民生委員や老人福祉員が単身高齢者等の訪問をする際に、紹介する社会資源の1つになっている。 2.ケアマネジャーが紹介するインフォーマルサービスとしての役割も担っている。 3.参加者が互いに声掛けを行い、見守り合える関係の構築 4.就労家族の日曜日に相談できる相談機関としての役割を果たす。 5.家族と一緒に参加することもできるため、デイサービス等の前段階のサービスとして活用できる。
<ul style="list-style-type: none"> *民生児童委員 *老人福祉員 *社会福祉協議会 *自治連合会 *地域の介護保険事業所 	<ul style="list-style-type: none"> *資金源：山科“きずな”支援事業活動助成金 *認知症ケア学会地域活動支援金 *法人からの拠出 	<ul style="list-style-type: none"> *当センターを事務局として、地域住民の希望者の鍵を預かる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1.事業の広報活動等にて、見守りの機運が高められる。 2.有事の際、自宅を壊すことなく、解錠できる。 3.地域の関係機関との連携に強化が図れる。

法人名	主な取り組み名称と内容等	頻度	把握している地域課題 (課題把握の経路)
			<ul style="list-style-type: none"> * 近隣の老人福祉員や町内会長等が地域の高齢者の多くのかぎを預かり、負担になっている（多い人は数十本預かり、混乱しそう・・・との声もある）。 * 地域の見守り環境が希薄であり、独居の人が異変を起していても気づくことができない。 (民生委員・老人福祉員・自治連合会・ケアマネジャーから聴取)
緑寿会	日常生活圏域にて地域密着型施設の合同運営推進会議を開催支援している	* 年1回の会議と打ち合わせ会議を年2回開催	<ul style="list-style-type: none"> * 圏域内の地域密着型施設毎に、会議を開催しているが、会議に招集される役員等は重複しており、地域の役員に負担がかかっている。 (運営推進会議に消腫される地域住民より聴取)
緑寿会	やましな認知症サポート連絡会に加入し、認知症の理解の普及啓発事業を行っている。	* コア会議・全体会議等含め、年間5回程度の会議と、イベント開催等	<ul style="list-style-type: none"> * 認知症高齢者の増加。 * 地域住民の認知症に対する理解の乏しさ。 * 地域で認知症高齢者を見守る体制が不足している。 (地域住民、介護保険事業所より聴取)
緑寿会	ランチミーティングの開催	* 年4回	<ul style="list-style-type: none"> * ケアマネジャーの知識・対応力不足がある。 * 圏域内に1人ケアマネの事業所が多い。 (ケアマネジャーより聴取)
緑寿会	圏域内の事業所を中心とした交流会	* 年1回	<ul style="list-style-type: none"> * 圏域内の事業所同士、横に繋がりが少ない。 (圏域事業所より聴取)
緑寿会	ボランティア交流会	<ul style="list-style-type: none"> * 年3回(ボランティアの種別において、1回づつ) ①筋トレ・②オレンジカフェ・③茶話会 	<ul style="list-style-type: none"> * ボランティア同士横の繋がりが薄い。 * ボランティアの希望、目標等の目指すところ共有する機会がない。 (ボランティアより聴取)

地域での協力者や外部機関などの連携先	発生するコストや資金源と概算金額など	仕組み工夫など、その他	考えられる成果等
<ul style="list-style-type: none"> * 消防署 * 警察署 		<ul style="list-style-type: none"> * 地域の関係団体等により、かぎあずかり実行委員会を結成している。 * 有事（数日間、登録者の顔を見ていない、自宅で倒れてる可能性がある等）の際に、かぎ預かり実行委員による、緊急出動にて自宅を解錠し、様子確認を行う。必要に応じ、消防・警察と連携する。 * 定期的に実行委員会を開催し、地域住民とともに、かぎ預かり事業を通じ、地域の見守りの機運を高める事業としている。 * かぎをよく紛失する人に対して、確認後、一旦鍵を返却し、自宅を解錠することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4.かぎをよく紛失する登録者に対して、フォローができる。
<ul style="list-style-type: none"> * 地域密着型施設 * 地域密着型施設利用者及び家族 * 民生児童委員 * 老人福祉員 * 社会福祉協議会 * 町内会会長 	<ul style="list-style-type: none"> * 会場費：400円（法人からの拠出） 	<ul style="list-style-type: none"> * 当センターの圏域に立地する地域密着型施設（9施設）と合同で、地域運営推進会議を開催する（地域運営推進会議の開催要件として、年間開催回数の半分を合同にて開催可能、また、地域密着型デイサービスにおいては、全てを合同で開催可能となっている）。 * 概ね、各センターからセンターの特徴や利用状況の報告をもらった後、質疑応答を行い、最後に地域からの要望、また地域へ提供できることを話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 合同で開催することで、地域役員の負担軽減が図れていると同時に、地域密着型施設にとっても、開催の負担軽減が図れている。 2.合同にすることで、地域住民が一度にたくさんの方の施設の情報を得る機会となる。
<ul style="list-style-type: none"> * 山科区内の介護保険事業所 * 山科区内の調剤薬局（居宅療養管理指導を実施している薬局） 	<ul style="list-style-type: none"> * 年会費：500円（法人からの拠出） 	<ul style="list-style-type: none"> * コア事業所、一般事業所と2種類の事業所で構成される団体であり、コア事業所の会議により、事業等を立案し、全体会議にて決定される。 * 当センターは、コア事業所として、圏域の一般事業所とともに、広報事業と行方不明高齢者対策を担っている。 * 広報活動においては、リーフレットの作成やホームページ、フェイスブック等にて、活動の発信を行っている。 * 行方不明対策事業としては、登録者に対して QR コードを活用した行方不明高齢者の検索活動、また、chatworkを活用した行方不明高齢者の情報発信をしている。 * 圏域内の小中学校への認知症サポーター講座の開催をしている 	<ul style="list-style-type: none"> 1 認知症の理解を地域住民に促し、地域全体で認知症の人を見守れる地域づくり。 2.行方不明高齢者の早期発見の支援。 3.次世代を担う、小学生・中学生への認知症の理解を深める。
<ul style="list-style-type: none"> * 圏域内の居宅介護支援事業所 	<ul style="list-style-type: none"> * お弁当代：500円程度（参加者が各自で負担） 	<ul style="list-style-type: none"> * 圏域内の居宅介護支援事業所と一緒に事例検討会を行う機会の提供をしている。 * 事例を持ち回りで提供し、参加者より支援に対する意見を出したい、支援の方法を多角的に考える。 * 開催時には、各事業所が活用している配食弁当の事業所より、お弁当を注文し、配食弁当の試食も行い、利用者へ紹介する際の参考としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 圏域内の事業所の支援・対応力の向上。 2.困難事例等について、多角的な意見を聞くことができる。 3 顔のみえる関係を形成し、いつでも相談できる体制づくりが可能
<ul style="list-style-type: none"> * 圏域内の介護保険事業所 	<ul style="list-style-type: none"> * 参加費：必要経費（各自が負担） 	<ul style="list-style-type: none"> * 年1回圏域内の事業所にて忘年会を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 圏域内の事業所同士、顔のみえる関係が形成される。
<ul style="list-style-type: none"> * 元気倶楽部、オレンジカフェ等のボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> * 開催費：3,000円程度（法人から持ち出し） 	<ul style="list-style-type: none"> * 年1回、各ボランティア種別ごとに、交流会を実施。 * 日頃の活動についての、思いや希望等を確認し、今後の活動へ反映していただけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1.ボランティアのやり甲斐を持ち続けてもらうことができる。 2 ボランティア同士の意見交換を行い、お互いの活動へ反映することができる。

法人名	主な取り組み名称と内容等	頻度	把握している地域課題 (課題把握の経路)
はしう ほど ふしや かい	青パト活動（地域防犯活動）	毎日	田舎でも何が起きるか解らない時代です。防犯活動をする団体も当初は無かったと記憶しています。
はしう ほど ふしや かい	自主配食	毎日	市の配食の基準が厳しすぎて、独居か医師の診断が無ければ許可が出にくい。また、町内、間人という村以外に食料品を販売する店がありません。食の確保が大変な町です。
はしう ほど ふしや かい	引きこもり青年の社会復帰支援 (完了しています)	週1～2	貴重な若者の引きこもり
はしう ほど ふしや かい	地域創生NPOへの支援		平成16年度京丹後市合併からでも、1/4の人口減の過疎地域対策を少しでも支援したい。
はしう ほど ふしや かい	職員の地域への派遣	必要時	地域における福祉講演、敬老会のレク等の人材不足。
はしう ほど ふしや かい	いちがお園まつり	ここ数年は春だったが、 秋の開催に変更	地域イベントの減少。
はしう ほど ふしや かい	オープンデイ	秋	福祉施設が敷居の高いもの、知らないという方がまだまだ多く地域にはいらっしやいます。
はしう ほど ふしや かい	介護者教室	年2回	介護は誰かが知識を提供してくれるものではありませんし、ストレスも溜まります。
はしう ほど ふしや かい	車いす無料貸し出し	随時	葬式、結婚式、受診等で一時的に車いすが必要な場合に貸し出します。
はしう ほど ふしや かい	福祉車両無料貸し出し	車両が空いてる日、時間 帯	要介護者の移送に必要な場合に貸し出します。
はしう ほど ふしや かい	地域イベント参加	年3回	出店者の減少。
はしう ほど ふしや かい	地元区グランドゴルフ大会協賛	夏	経費が少ないのかな？
はしう ほど ふしや かい	町民（等）のすべての実習、研修の受け入れ	随時	近隣の法人さんですが、就職に繋がる可能性のある実習等受けなるんですが、先生の卵は受けないのかなあ・・・他町の方の依頼もまわってきます。
はしう ほど ふしや かい	バザー収益金寄付	年1回	各ボランティア団体の資金不足

地域での協力者や外部機関などの連携先	発生するコストや資金源と概算金額など	仕組み工夫など、その他	考えられる成果等
町内3か所の派出所のおまわりさん達	今年度1台増車し、合計10台とした。	ルールが細かい、資格が必要等々。	防犯に少しでも寄与していると思いたい。
台風等で行けない場合、民生委員に助けて貰ったことがあります。	専用容器が6,480円します。認知症の方が良く壊されるので更新は大変です。昼夕各2ルート計4ルート配達するのでガソリン代はかなり負担ですし、車の確保も大変です。市の委託分との比率が変化の中でサービスの維持が大変です。	人を雇えないので事務所の職員で配達しています。事務所留守番含めて勤務練りが大変です。昼は70分、夜は40分の枠で配達しています。夜、遅出必要一歩手前です。	食の確保に貢献出来ていると思いたい。
お母さん（送迎）	無し	ご利用者のドリルを手伝ったり、話し相手をしてもらう等々。	数年前、ファミマに就職されました。暫くして、来られなくなりました。
		理事を1名派遣しています。	
		いちがお園というボラ団体として社協に登録しています。	
各団体様	イベント会社に支払う経費。	地域への感謝祭という位置づけにしています。	安価でイベントを楽しんでいただいているものと思っています。
	送迎費、昼食費、おやつ代等々	全事業所がその日施設を開放し、説明のための職員を付けます。	身内等の利用を考え始めた方々には特に好評です。
		施設内のケアマネ主催で行い、対象の方々に声をかけて開催します。	諸知識を得られると共に、横のつながりができています。
		無料、短期間。	一時必要とされる方には喜ばれています。
	ガソリン代	無料。	福祉タクシー等の普及に伴い、ほぼほぼ無くなっています。
	主材料以外のすべての経費	唐揚げ3個100円等原価売価で地域の皆様に還元します。碓高原祭、成願寺地藏盆、秋の祭典に出店します。	いちがお園の存在感は出ています。
	ビール購入費	協賛し、景品を提供し、職員が数名参加します。	当たり前になって、拒否できません。
		インターンシップ、社会福祉士の実習、個人的な実習、先生の卵さん実習等々、断らずに全て受けています。	
	30,000円	ここ数年提供品の不足からできていないのですが、バザーをしていた時の残金をボラ連に3万円、町の小学校、保育園(当時計6か所)に順番に5万円程度の物品寄付をしてきました。	結果、ボラ連の毎年の寄付だけ残りました。各団体には、5,000円割り振られるそうです。とても少ないですが、宛てにされているとのこと。

法人名	主な取り組み名称と内容等	頻度	把握している地域課題 (課題把握の経路)
はしう ど福社 会	災害時の炊き出し	数年前1回	数年前、長雨の影響で墓山が大きく崩落し、家を数軒のみこむという災害が発生しました。なかなか被災者が見つからず、自衛隊も常駐する大災害となりました。そのとき、地域の方が一時避難した公民館に落ち着くまで炊き出しを行いました。

地域での協力者や外部機関などの連携先	発生するコストや資金源と概算金額など	仕組み工夫など、その他	考えられる成果等
	材料費		

法人名	主な取り組み名称と内容等	頻度	把握している地域課題 (課題把握の経路)
リガ レシ の架 け橋	高齢者すまい・生活支援事業	毎週 1～2 日	高齢者が安心して住み替えられる低廉なすまいの不足。 保証人、身元引受人の課題
リガ レシ の架 け橋	いきいき教室	月 1 回	高齢者の多様な居場所の必要性 介護予防推進センター卒業後の居場所
リガ レシ の架 け橋	喫茶・サロン活動	きたおおじ 土日/隔週	
リガ レシ の架 け橋	体操教室	うえの 朝 30 分程度/週 3 日	元気な高齢者の居場所
リガ レシ の架 け橋	喫茶・栄養相談	うえの 喫茶毎日	
リガ レシ の架 け橋	こども 110 番のいえ登録		運営推進会議で自治連会長から
リガ レシ の架 け橋	福祉避難所		
リガ レシ の架 け橋	認知症ケア出前講習	不定期	地域の認知症理解の促進の必要性
リガ レシ の架 け橋	社会福祉の増進に資する人材育成・確保事業 人材・開発研究センター研修事業 主に京都市（遠隔地はスカイプ等を利用） グループ法人の職員対象に統一研修を実施（平成 29 年度はキャリアに応じた体系別研修に 951 名が受講） 社会福祉の増進に資する人材育成・確保事業 人材・開発スーパーバイズ事業 主に京都府、滋賀県 グループ法人のチーム運営、人材育成を支援（各法人の個性に応じた巡回事業等） 社会福祉の増進に資する人材育成・確保事業 地域の介護等事業者の経営管理連携推進事業 京都市 介護人材の確保・定着に向けた複数の社会福祉法人による共同事業		

地域での協力者や外部機関などの連携先	発生するコストや資金源と概算金額など	仕組み工夫など、その他	考えられる成果等
	見守りと電話による安否確認活動に1回1時間/週	福祉系学生とともに高齢者生活支援を検討 地域包括支援センター、不動産業者と連携	地域包括支援センターとともに、良質な不動産業者との連携、地域生活継続の支援 学生と高齢者の交流の機会
地域包括支援センター 介護予防推進センター 民生委員 学区社協他 地域住民	おやつ材料など	簡単な体操と、おやつ作り	元気な時から地域高齢者と地域住民に係るネットワーク形成 連続性のある支援拠点としての事業所の役割発揮
民生委員、地域住民	喫茶材料費など 一部、北区補助金あり	開催チラシを毎月作成し、民生委員等に配布してもらう	多世代交流の場
近隣住民		玄関先にボードを置いて案内テラスを開放して実施することで、参加しやすい環境づくり	地域住民が通う場の一つとして定着
近隣住民	管理栄養士1時間程度	事業所前のボードで案内周知	高齢者の食事相談によるフレイル対策
P T A、自治会、警察			地域の見守りネットワークに参加
町内会、地域包括支援センターなど	職員の活動時間 イベント準備資料	子ども向け紙芝居など、世代に応じた準備 地蔵盆での開催	町内会など、小規模単位での認知症理解促進 事業所の役割の周知

法人名	主な取り組み名称と内容等	頻度	把握している地域課題 (課題把握の経路)
北桑会	地域学童クラブの運営 京都市補助事業 (京北学童クラブ)	日曜日、1/1～1/3 以外毎日営業	地域に児童館なし。学童が必要な3つの小学校児童の放課後の居場所がない。
北桑会	配食サービスの実施	土曜、日曜以外	市社協(京都市、南丹市)受託事業。独居高齢者の食生活の問題
北桑会	法人サークル「よさこい共」活動	定期	過疎化の進む地域の活性化が必用
北桑会	研修会(地域内事業所参加型)	年1回(2日)	外部研修への参加減少あり
北桑会	美山ボランティア部活動	年4回程度	
北桑会	地域行事「グランドゴルフ」大会への協賛	年間2回	地域の元気な高齢者間でさかんなスポーツとなっている。
北桑会	地域とのふれあい祭りを開催 (拠点ごと)	年1回 (各拠点)	施設入所者、利用者と地域との交流の機会が少ない
北桑会	地元産バイオマス燃料の利用@35円/Kg	豊和園365日 しゅう6ヶ月	再生可能エネルギー利用促進、地元企業の製品普及の強力
北桑会	地域への施設機能の開放	会議・レク時	気軽に利用できる場所が少ない (冷暖房、障害者トイレ利用可)
北桑会	地域社協行事の送迎(公用車+運転手)	適時	交通インフラが不便である
北桑会	消防団員(職員)活動の支援	常時	過疎化の地域、消防団員の減少、昼間、団員不在など
	しゅうざん cafe	月2回	地域のcafé的な交流の場が不足
	ヨガ教室	毎週1回	職員及び地域の方の健康づくりとしてヨガ教室を開催

地域での協力者や外部機関などの連携先	発生するコストや資金源と概算金額など	仕組み工夫など、その他	考えられる成果等
小学校、教育委員会、保護者しゅうざん施設ほか	運営費、車両費、運営費、車両費人件費、人件費 670 万円 (運営補助金あり)	地域的に放課後 3 小学校に車で迎えに行く。	地域の子育て支援、就労支援に大きく貢献。32 年度、小中一貫新校舎内に移転が決定。
民生児童委員、市社協ケアハウス及びデイ職員	弁当箱代 約 円 公用車、燃料代	独自、委託配食の 2 本立て	食事を喜んでいただきながら、安否確認につながっている。
施設職員、地域の方、団体	法人から活動補助金 20 万円/年を支給。	法人内行事、地域の催しからの依頼に参加。	地域へのアピール効果 (企業魅力)、職員のモチベーションアップ。
包括、介護保険事業者など	講師代 15 万円、広報代 5,000 円	懇親会に法人補助 2,000 円/人	他事業者との交流、連携強化
美山やすらぎホーム職員有志	ごみ拾い備品代 5,000 円/年 T シャツ、処分費用	地域を限定して、職員 10 名程度でゴミ、空き缶を拾い集める。	地域から安心感をもってもらえる。
法人役員、元役員 地域の諸団体	協賛のお祝い金 30,000 円/回 景品の購入	協賛で実施、理事長始め歴代役員も一緒に協議に参加。	法人の認知度をあげ、サービスにつなげていく。
行政関係、諸団体、利用者家族、ボランティア	食材、備品レンタル、御礼など 法人総額 約 120 万円	施設の実行委員会を中心に企画し地域からの出店も受ける。	地域交流、利用者の楽しみの機会、職員の団結力の強化
地元企業、京都市ほか	木質ペレット燃料 250 万円/年間 保守、維持費 200 万円/年	施設内の給湯、床暖房に使用	C o 2 削減、地元企業活性化。
各、団体や地域包括支援センター。	喫茶メニューコスト、広報活動 空調、電気代	空手教室、しゅうざん喫茶、俳句教室、他事業所研修会、勉強会	地域交流、情報開示の場ともなっている。
社協	燃料費、職員派遣費用	依頼があった日時に公用車を運転手つきで派遣。	地域、団体とのつながり強化。法人サービスの利用促進。
京都市右京消防署、中部広域消防組合、職員ほか	非常時のシフト変更や有給扱いの処理での手間とコスト発生。	団員の緊急出動の際の配慮や勤務中の出勤扱いでの対応	京都市消防団協力事業所の認定済み。
地域住民、第三者委員	ケーキセット 300 円 栄養士の手作りケーキ	特別養護老人ホーム利用者、家族、地域の住民が集えるスペースにて 2 時間開店。	施設入所者と地域との継続した関係が作れる。施設機能の開放で地域の理解が得られやすい。
ヨガ指導者 職員、地域の若い世代の住民	法人所有の建物を教室に提供。ヨガ指導料を法人が負担。	職員を通じて地域に広報	健康の増進、高齢者事業、施設への若い世代の関心が集まり、雇用の機会となる。

法人名	主な取り組み名称と内容等	頻度	把握している地域課題 (課題把握の経路)
松光会	風水災害時避難所 風水災害時の避難所として、地域住民を受け入れている。	風水災害時 (年数回)	近隣の小学校が避難所となっているが、地域の高齢者が風水災害時に避難し、生活することが容易でなくなっている。
松光会	介護保険認定を受けた方の再就職支援	週に1回の訪問	4年前まで関東に住んでおられた為、地域に知り合いがおられず、介護保険認定前は困った時に頼る先が全くなかった。 住民の大半が学生のマンションに住んでいる為近所付き合いがない。
松光会	認知症サポーター養成講座や徘徊模擬訓練への企画・実行を行っている。	会議は2ヶ月に1回	学生の街なので、人は多いが地域住民の関わりがうすい、また認知症への理解も不十分
松光会	注意欠陥多動性障害の支援	3ヶ月に1度程度	地域住民と一切交流なし
			・
			・
			・
			・
			・
			・
			・
			・
			・
			・
			・
			・
			・
			・

地域での協力者や外部機関などの連携先	発生するコストや資金源と概算金額など	仕組み工夫など、その他	考えられる成果等
自治会会長	地域住民用に停電時の電源の確保のため、発電機 3 台（48 万円相当）、その他、懐中電灯、ランタン、投光器を購入。担当職員の超過勤務手当等は発生しない。	避難を受け入れた際は、自治会会長と連絡を取り、地域住民の安否を知らせる。	地域住民の安全、安心を確保することができる。
地域包括職員、KP（弟）	ボランティアで小規模多機能スタッフ（主にケアマネ）が週に 1 回訪問（15 分程度）	小規模のスタッフが週に 1 回訪問し、状態に変化がある場合は地域包括に連絡し、地域包括職員とご本人と一緒に課題に対する解決方法を模索する。	介護保険認定を受けたが小規模多機能を利用することで、状態が改善し、小規模多機能を使わなくても生活できるようになった。小規模多機能のスタッフを中心に見守り活動を行い、現在、週に 20 時間程就労できるようになった。
地域包括職員、圏域の介護保険事業所	会議や催しにスタッフを出す為にその日は普段より余分にスタッフを配置しているので、人件費が必要。	地域の専門職員と連携、情報共有などのやりとりを行っている。	地域住民に認知症に対する理解・普及、啓発活動に貢献できている。
担当ケアマネージャー、地域包括職員、民生委員	夕方以降に貸し出すことになる為、使用後の風呂掃除の為にスタッフが対応するが、費用は発生しない。	担当ケアマネージャー、地域包括職員、民生委員との連携、情報共有などを行っている。	注意欠陥多動性障害の為、近隣の銭湯、介護保険事業所から出入り禁止を受けている方に対して、ご本人からの相談があった時に、小規模多機能のお風呂を貸し出している。

法人名	主な取り組み名称と内容等	頻度	把握している地域課題 (課題把握の経路)
六心会	<p>きいとカフェ&サロン 場所：地域密着型特養きいと キーワード：健康 内容：カフェは健康スムージー提供、サロンはエロ ンゲーション教室（体幹と手足を同時に動かすト レーニング、柔軟性と筋力、バランス能力を高め る）</p>	<p>月2回 第1・3木曜</p> <p>お花見カフェなど1DAY も開催</p>	<p>当初の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● きいとの地域交流スペースが地域からの認知度が低く、十分な活用に繋がっていない。 ● 毎年、夏休みには地域の子どもがラジオ体操に施設の駐車場を利用しており、先ずは夏休みに子供向けのワークショップの企画を地元自治会長や民生児童委員に相談したが難しい感触であった。 ● 各地域でサロンは開催されているが、75歳や80歳以上と年齢制限があり、元気高齢者向けのサロンがない ● 健康維持を気にする住民は多いが、身近な場所（徒歩圏内）で気軽に健康作りを体験する場所がないという想定から始まった。 ● 地域の中に同様の趣旨で開催されているサロンもあり、当該カフェ・サロンの内容が重複しないように心掛けた。
六心会	<p>きいとワンディワークショップ</p>	<p>月1回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化的で創造的な技能を持っている人的資源が、地域住民や利用者家族等におられることを法人職員が把握していた。 ● その方々の技能発揮の場として施設のスペースの活用ができないか検討、定期的にワークショップとして企画開催することとした。 ● 趣味や生活の質を高める講座が徒歩圏内にあるということは、地域住民のQOL向上に資すると想定した。 ● 地域の方で自分の知識や技術を伝えたいという人材がおられる
六心会	<p>てんびん倶楽部運営 地域住民・福祉医療関係者・行政・社協などの連携会議、毎回20名程度が集まる。六心会からは5名参加し、事務局として企画調整、出前講座講師調整など総合窓口を担う。</p>	<p>①2月/1回 ②実績 29年度13件 30年度15件</p>	<p>当初まちづくりのための意見交換から始まり、地域サロンの停滞化等が課題として挙げられた。 その後、専門職を講師として地域へ派遣する取り組みが始まった。 地域住民が何に興味があるのか模擬講座を実施し参加者にアンケート実施した</p>
六心会	<p>子ども食堂（コミュニティ食堂てんびんの里みなみ） 毎月第3金曜日16:30から19:00 約35名の子どもが集まる。</p>	<p>月/1回</p>	<p>子ども食堂が当該地域にも必要ではないかという気運があり、隣接養護ホームや地元民生児童委員、自治会役員等と検討を始めた。子どもの居場所作りは、社協「五個荘地区福祉活動計画」でも取り組み事項として挙げられている。</p>

地域での協力者や外部機関などの連携先	発生するコストや資金源と概算金額など	仕組み工夫など、その他	考えられる成果等
<p>カフェ＝地域ボランティア 8 名が当番制で担当 サロン＝老健リハビリテーション専門職</p>	<p>【初期コスト】 カフェ（什器） ¥137.000 サロン（バンド等） ¥120.000</p> <p>行政から補助金 ¥120.000</p> <p>【ランニングコスト】 なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 法人には老健がありリハの専門職がいることをアピールしたい。身近な存在であり、気軽に相談してもらえる関係作り ● サロン参加者には出席カード作成（ワンポイントアドバイス） ● ボランティアには継続参加の工夫で懇親会開催。懇親会（＝意見交換会）を開催した。ボランティアが主体となって活動のエンジンになる工夫が必要で、その第1歩であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 元気高齢者の集いの場の提供 ● 隣接施設（通所リハ）の利用者の外出の機会が増えた ● 介護予防・健康への取り組み意識の向上 ● 法人老健のリハビリテーション専門職の専門性発揮の場としての意味があり、就労意欲向上に加え、地域住民との関係性構築、顔の見える関係を築ききっかけとなっている。 ● カフェボランティアの育成が課題である。ボランティア自らが考え実現へ導きボランティアならではの活動が促進されるようなコーディネーションを法人が学ぶ必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民 ● 地域の商店主（職人） ● 地域で趣味の講座など開催している人 ● 芸術などを仕事にしている地域住民 ● 特定の趣味を持つ福祉関係者 	<p>フライヤー印刷費</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 法人の地域活動を検討するテーブルとして【地域交流活用ミーティング】を月1回開催した。六心会の各事業所から担当職員を決め集まり、地域の活動を六心会全体で推進できるように工夫した。 ● 郵便局やスーパー等にフライヤーを置き、福祉施設のイメージを変えるような工夫をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎月1回定期開催の地域交流スペース活用ミーティングは職員の地域意識醸成、地域活動について意見交換の場として定着した。 ● 地元の商店主は職人を兼ねていることが多く、講師として招くことにより、地域住民が訪れやすい福祉施設へ変化しつつあるように感じる。
<p>住民団体代表（自治連、民児協、まち協）、市社協・地区社協、行政、医療機関、歯科、薬局、法人専門職など。 運営のパートナーは市社協。</p>	<p>コピー用紙など需用費、通信費</p> <p>事務局経費</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 開催日を第三火曜日に固定したことで、年間の開催日がわかり、メンバーが参加しやすい ● 特に医療関係者が参加しやすい日時に設定した ● 年に1回は懇親会を開催し緩い関係性をアピール 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の福祉関係の主な窓口や主となるメンバーと、地域の中の高齢者関係の事業所や医療職が顔の見える関係作りができた ● 顔の見える関係から他の地域事業においても連携がとりやすくなった
<p>近隣社福グロー・市社協・地区社協・3地区自治会・六心会協働</p>	<p>滋賀の縁センターからモデル事業助成金 ¥300.000</p> <p>1回当たり開催にて 収入 ¥4.000 支出（食材費） ¥10.000</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども食堂についての勉強会や研修に参加。また、他の社会福祉法人が取り組んでいる子ども食堂へ見学 ● 6月のOPENに向け関係者の準備委員会を2月から開催 ● 当初の周知方法は民生児童委員の協力を得て自治会長へ顔つなぎ。各地区に応じた方法（回覧・各戸へ配布）で周知した ● 「夏休みの過ごし方懇談会」が各地域で小学校の先生も交え保護者に開催される場を活用し周知活動 ● 開催前後に打ち合わせと反省会を行う（実施側も不慣れな為） ● 子どもの顔を良く知っている主任児童委員や民生児童 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども食堂を通して、県社協の開催しているレイカディア大学の方々が食材にと畑づくりで参加など子ども食堂の活動を通じて地域の関係性の強まりを感じる ● 他の地域の次の子ども食堂開設のノウハウを広げる ● 高齢者施設であるが、子どもなど多世代交流の広がり ● 共同実施者である隣接の養護老人ホーム入所者が会場準備や料理の手伝いの一部を担い、入所者の役割とやりがいへつなげることができた。子どもと一緒に食べられ入所者の生活が広がった。

法人名	主な取り組み名称と内容等	頻度	把握している地域課題 (課題把握の経路)
六心会	介護のイロハ介護技術研修	1月/1回の6回コース	<ul style="list-style-type: none"> ● 初めて家族介護を始める方々も含め、改めて学びたいという老健利用の家族や地域の方々にむけた研修会 ● 老健の在宅復帰に向けた家族支援の取組
六心会	法人職員が委員として他団体の活動に参画する <ul style="list-style-type: none"> ● 市域・・・第1層協議体への参加(委員) ● 日常生活圏域・・・第2層協議体への参加(委員)、五個荘地区社協の理事 ● 小地域・・・自治会の福祉会議や見守り会議への参加 	月に5~6回の活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活動を進め地域市民団体等と交流する中で、地域活動計画の策定などに関し意見を求められることが多くなり、その延長で委員・役員としての参画も依頼された。 <p>【委員就任】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 第1層協議体 東近江市社会福祉協議会主催、市域全体の福祉推進会議 ➢ 第2層協議体 五個荘地区社会福祉協議会主催、日常生活圏域の地域福祉活動推進会議 ➢ 小地域 自治会の福祉推進会議や見守りマップ作り会議への参加 <p>【役員就任】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 五個荘地区社会福祉協議会理事(辻) ➢ 五個荘まちづくり協議会 推進委員(辻)

地域での協力者や外部機関などの連携先	発生するコストや資金源と概算金額など	仕組み工夫など、その他	考えられる成果等
		<p>委員に受付をお願いしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 近隣の福祉関係の短大生のボランティア ● 食材の調達について、野菜や米は地域に呼びかけ、寄付により集めている。また地域の有志が清水苑の畑を利用し玉ねぎを植栽、収穫、食材として使用した。地域から食材の寄付は増加傾向である。 ● 寄付以外の食材については費用が発生するがその財源が課題である。 	
<p>老健の職員が講師となり開催しているが、他の事業所の職員も講師として協力</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● チラシの工夫 9/28 乗り降りのコツ伝授します 10/26 脱ぎ着のコツ伝授します など、介護をする家族目線のチラシ <p>半年 6 回コースで日程を確定しておき周知した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 在宅での介護の困りごとや、分からないけどどうにかやっている方のお悩み相談に繋がった ● 職員が講師になることで、職員への在宅復帰への支援の意識が強まった ● 職員が地域、家族の方々と話せる場ができた
<p>東近江市社会福祉協議会 五個荘地区社会福祉協議会 五個荘まちづくり協議会</p>	<p>地域支援担当職員人件費</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会福祉法人職員として専門的な視点に加え、住民としての視点を常に意識している。 ● 地域住民が本来持つ力量やネットワークを阻害しないよワーク、主体は住民であることを常に意識している。 ● 地域、行政、社協など依頼があれば、必ず調整して参加するようにしている。 ● 地域や社協が開催する研修、フォーラム、イベントへの参加も可能な範囲で参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1層協議体 【住民と医療専門職がつながるプロジェクト】で寸劇を作り、地域支え合い活動のPRをおこなった。 ● 第2層協議体 「自治会カルテ」作成 25ある自治会へ出向きヒアリングを実施。地域活動の工夫、地域課題の内容把握に加え、顔の見える関係性構築へ繋がった。次年度展開の素地ができた。 ● 五個荘地区社協の理事就任 地区社協の役割、仕組みなど理解が深まった。理事として地域の研修に参加、地域住民とダイレクト対話する機会が増え、地域の活動や福祉を住民自身がどのように考えているのかなど ● 小地域推進会議に参加 地域の課題を地域の方と一緒に考える事ができた。相談を受けたり、意見を求められるようになり専門職の役割が意識できた

法人名	主な取り組み名称と内容等	頻度	把握している地域課題 (課題把握の経路)
六心会	<p>地域イベント参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会夏祭りに模擬店出店（カレーライス） ・ 日常生活圏域フェスに模擬店出店（おでん・たこせん） <p>地域協議会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いっそう元気！東近江」地域支え合い推進協議体（東近江市第1層協議体） ・ 五個荘地区住民福祉推進委員会（東近江市第2層協議体） ・ ごかしょう安心サポート委員会（五個荘地区に認知症の理解を広げるため、行方不明者早期発見保護訓練や研修など実施） ・ 東近江市市民協働推進委員会（市民と行政協働によるまちづくり推進） <p>地域の福祉教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校へ講師派遣 <p>地域防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 五個荘総合防災訓練に福祉避難所の出先として参加 ・ 専門福祉避難所 		

地域での協力者や外部機関などの連携先	発生するコストや資金源と概算金額など	仕組み工夫など、その他	考えられる成果等

第3章 リガーレ統一研修

1. リガーレ統一研修 について

平成27年度からリガーレグループの研修の仕組みとして「リガーレ統一研修」を年間通じてグループ法人の職員に提供する事業を開始した。研修の構成としては、採用時の新人研修から始まり、入職1年目職員対象の専門研修Ⅰ、入職2年目以降職員退職の専門研修Ⅱ、平成29年度からは、採用5年目以降のチーム内でOJTを担当する職員対象の専門研修Ⅲも加えて一般職員向けの専門研修の体系が整備されて現在に至っている。専門研修は、例年通り実施した。役職者対象の研修として、リーダー・役職者合同研修として、介護場面でも応用できる視点、知識、技術として「リハビリテーション」について専門職を招き学んだ。また、役職者研修においては、1年間をかけて現場の事例に向き合い、集合研修ではマネジメントの報告をもとにグループスーパービジョンの手法で演習を行い、役職者としての成長を支援した。

他、介護福祉士ファーストステップ研修、介護職員実務者研修、介護福祉士及び介護支援専門員資格取得支援研修を開催し、年間65回開催、延べ844名の受講があった。尚、2月、3月は感染症予防対策で研修を中止したため、一昨年に比べて参加者数が減少する結果となった。

2. 令和元年度の新たな取組み

令和元年度は、ケアワークで大切に視点である生活の自立の視点としてリハビリテーション(rehabilitation)の考え方を学ぶ研修を実施した。施設サービスの利用者が重度化する中、身体的自立よりは心理的・社会的自立に重きをおくといった傾向はみられなくはない。しかし、一方で、専門職側が、身体的も重度であることを前提に身体的機能の復興や支援をあきらめてしまっていないかといった課題がある。そこで、平成30年度の当該事業においては、「介護現場でのリハビリテーション指導の研修会～介護人材に新たな魅力を伝えるために～」研修会を開催し、「自立支援教育の実際」というテーマで煌めく帰り花プロジェクト代表の作業療法士・作業療法学修士 西野 歩氏に講演いただいた。特別養護老人ホームの介護職員に対する教育の実際、サービスやケア向上に関する成果など事例を通じて学ぶ機会を持った。

続く、令和元年度においては、研修会という形ではなく、「リーダー役職者合同研修として」リガーレ統一研修に取り込む形で3回にわたり開催した。プログラムは以下の通りである。

第1回 人の身体や構造の理解「リハビリテーション概論」

第2回 人の身体や構造の理解「生活に必要な運動学」

第3回 人の身体や構造の理解「生活支援に生かすリハビリテーションの視点」

※講師：社会福祉法人六心会 作業療法士 小菅知子氏

リハビリテーション研修の成果として、①リハビリテーションの概念学び、介護もリハビリテーションも基軸とする考え方や理念は同じであるということを確認できた。②介護現

場では、「リハビリ」という言葉でまとめがちであった行動が、実は、介護の専門職が担うべきことであったという気づきがあった。つまり、理学療法士や作業療法士でなくても、暮らしを支える介護職にできることがあることを知ったことである。参加者からは、更に具体的な介護場面で活かす方法の実際を学びたいという要望も多く、令和2年度のリガーレ研修においても継続して実施する予定である。

3. 好事例の紹介

ここでは、リガーレグループ法人で、リガーレ統一研修を取込み独自の研修を開発した事例を紹介する。いずれも、育成と定着を図るために、採用した新人を対象にした取組みである。

(1) 介護過程の展開を用いたOJT-E法人の取組み

- ・対象：新人2名 育成担当者2名
- ・内容：新人と育成者が同じ1事例を担当し介護過程展開を実施する。
- ・ねらい：同じ事例を新人と育成担当者の先輩で介護過程の展開をすることで視点の違いを発見し、互いの考えを意見交換することができる。新人が介護過程の展開の基本的なプロセスを経験する際に育成担当者は助言し、協力しながら情報を収集することができる。プロセスを共有していく中で育成担当者は新人がどのようなことに悩みつまずいているのか把握できタイムリーなサポートが可能となる。
- ・方法：入職より6か月経過時点で実施される、個別テーマ学習の発表を終えたのち、事業所内研修において育成担当者、新人を対象として「介護過程展開基礎理解」の講義を受講する。新人が対象の利用者を決定し、同じ事例の方を育成担当者も介護過程を展開する。新人育成プログラムにおいて作成されている介護過程展開シートを使用し①情報収集⇒②分析⇒③課題整理⇒④介護計画⇒⑤実践⇒⑥評価・考察と進んでいく。

育成担当者は①から④を約2週間で整理、主任の面談でプレゼンテーション実施。新人は2週間で①情報収集を実施した時点で、育成会議で進捗状況や困っていること、わからない事を整理して、その後4週間で育成担当者とともに②～④を作成する。

再度育成会議において内容の確認や助言をもらう場を持ち、その後1～2週間で⑤及び⑥を実施 整理の時間を持ったうえで、法人内新人発表会において報告する。報告に至るプロセスに育成担当者は伴走する。

技術の指導が中心になりがちな介護現場において、入職後、早い段階で介護過程の展開を実践することは、情報の持つ意味や、情報を分析するための知識の必要に迫られる。育成担当者も新人に指導しなければならないがゆえに文献を調べたり、他職種から情報を得たりすることの重要性に迫られる。

成果は、発表会という形式をとることにより聞く人にわかりやすく伝える工夫についても学び、育成担当者と新人が協力して事例の方のより良い暮らしを意識し、介護職員として成長できる経験となった。

(2) 個別のテーマで研究—G 法人の取組み

- ・対象：新卒新人 6 名
- ・内容：1 年間で取組む研究テーマをきめて、年度末に成果を報告する
- ・ねらい：実践現場での知識、技術の習得と並行して、テーマを決めて問題意識をもって深く研究することにより、実践する、考察する、探求するといった経験学習を身に着けることができる。
- ・方法：採用 1 か月目は毎週 1 回、3 か月目までは 2 週間に 1 回、その後月に 1 回集合研修を行う。内容は、自身の実践の成果や課題の報告を行う。報告に対して先輩や上司から助言などスーパーバイズを受ける。研究の進捗に対して助言を受ける。

1 年間、技術や知識を理念に結び付けて考察する場を振り返り研修という方法で丁寧に伴走することにより、年度末の研究報告会では、価値、技術や知識、思考力はもとより、人としての成長を確認できた。

4. 今後の課題

今後、グループとして研修事業を推進していく中で、課題を整理したい。現任者に育成については、一般的には、OJT (On-The-Job Training)、OFF-JT (Of-The-Job Training) SDS (Self Development System) がある。研修は OFF-JT にあたり、実践の場を離れて知識の習得、考え方の整理や振り返りの場であるが、課題は、学びを実際の介護場面や支援と結び付けて活かすことである。ここで、研修効果測定で用いられる評以下の評価指標もとに、リガーレ統一研修の特長を説明する。

*カールパトリックの 4 段階測定

- 1 段階—Reaction 受講者の満足度
- 2 段階—Learning 受講者の知識、スキルの習得度
- 3 段階—Behavior 受講者の職場での活用度 行動変容
- 4 段階—Results サービス、品質の向上

リガーレ統一研修においては、1 段階では、研修を受講する環境（会場環境、利便性等含む）については、年間を通じてほぼ同じ会場を確保できた。講義内容については、担当講師任せになるのではなく、講師チームで内容を協議して提供している。2 段階の受講者の知識、スキルの習得度において、受け身で受講するのではなく、能動的で意図的な知識やスキルの習得に対する動機づけを必要であり、講義だけではなく演習を多用して考えながら学べるように工夫している。また研修に送り出す各法人の上司や先輩には、研修後に「どんな学んできたのか」「どんな気づきがあったのか」「どう生かしていけるのか」といったことを対話を通じて共有してもらうことをお願いしている。3 段階の研修での学びを実践活かす行動変容に関しては、研修講師も担っているリガーレのスーパーバイザーが、グループ法人を巡回して研修での学びを実践で展開するための工夫の提示や助言を行うことでフォローしている。各法人の OJT の仕組み、人材育成の環境は一樣ではなく、研修での学びと現場をつな

ぐスーパーバイザーによる巡回事業は、グループとして、4段階のケアの質、チームの質の向上と標準化を推進するために研修事業を進めていくにあたり今後も必要であると考えます。

ここ数年、経験や職位に合わせた研修体系の整理を進めて現在の体系に至っている。今後は、一つひとつの研修内容について、講義や演習の組立て、時間の配分、ねらいや到達目標などの協議が必要である。大きく内容を変えるのではなく、一つひとつのプログラムやシラバスの質を磨き上げる作業が必要である。グループによる共同募集や人材確保が進む中で、確保した人材に対して、研修事業を通じて育成と定着をバックアップするために今後必要な作業である。

第3章 添付資料

2019年度 リガーレグループ 統一研修

種別	採用時新人研修	専門研修Ⅰ		専門研修Ⅱ		専門研修Ⅲ(OJT/リーダー)		リハビリテーションについて		役職者研修		フアーストステップ研修		資格取得研修	
		採用時新人研修	主に採用1年目の職員 (専門研修Ⅰ終了済みが望ましい)	主に採用2年目以降の職員 (専門研修Ⅰ終了済みが望ましい)	主に採用3年目以降の職員 (専門研修Ⅰ・Ⅱ終了済み)	リーダー研修 小規模チームの リーダーを担う職員	リーダー研修 小規模チームの リーダーを担う職員	リーダー研修 小規模チームの リーダーを担う職員	リーダー研修 小規模チームの リーダーを担う職員	リーダー研修 小規模チームの リーダーを担う職員	リーダー研修 小規模チームの リーダーを担う職員	リーダー研修 小規模チームの リーダーを担う職員	リーダー研修 小規模チームの リーダーを担う職員	リーダー研修 小規模チームの リーダーを担う職員	リーダー研修 小規模チームの リーダーを担う職員
対象者	中途採用者	中途採用者	中途採用者	中途採用者	中途採用者	中途採用者	中途採用者	リーダー・役職者	役職者	役職者	役職者	役職者	役職者	役職者	役職者
日程	4月当初の6日間	第1全曜日 13:30~17:00	第1全曜日 13:30~17:00	第1全曜日 13:30~17:00	第1全曜日 13:30~17:00	第1全曜日 13:30~17:00	第1全曜日 13:30~17:00	年間3回 13:30~17:00	偶数月 13:30~17:00	偶数月 13:30~17:00	偶数月 13:30~17:00	8月から18日間 9:00~17:00	8月から18日間 9:00~17:00	8月から18日間 9:00~17:00	8月から18日間 9:00~17:00
会場	別添指定	しんらん交流館他	しんらん交流館他	しんらん交流館他	しんらん交流館他	しんらん交流館他	しんらん交流館他		しんらん交流館他	しんらん交流館他	しんらん交流館他	しんらん交流館他	しんらん交流館他	しんらん交流館他	しんらん交流館他
4月	新人研修 (4/12,3,4,5)														
5月															
6月															
7月	フォローアップ研修 7/5 9:30~12:00														
8月															
9月															
10月	フォローアップ研修 10/4 9:30~12:00														
11月															
12月															
1月	フォローアップ研修 1/24 9:30~12:00														
2月															
3月	終了研修 3/6 9:30~12:00														

* 専門Ⅲ・リーダー A 「人の身体」の構造や行動の理解
 B 「人の身体」の構造や行動の理解
 C 「人の身体」の構造や行動の理解
 ・生活支援に生かすリハビリテーションの視点

2019年 リーダー暮らしの架け橋グループ統一研修実績報告

	日付	タイトル	会場	講師(敬称略)	受講者数
①新卒新人研修	2019/4/1~5	新人研修	おんまえどおり地域サロン	村田他	117
	2019/7/5	フォローアップ研修	おんまえどおり地域サロン	西村	18
	2019/10/4	フォローアップ研修	おんまえどおり地域サロン	村田	16
	2019/3/6	修了研修	おんまえどおり地域サロン	延期	0
					151
②中途採用新人研修	2019/	新人ハッチェン研修	おんまえどおり地域サロン	各法人で開催	0
	2019/	フォローアップ研修	おんまえどおり地域サロン	各法人で開催	0
					0
③専門研修Ⅰ	2019/5/24	①介護技術の基礎「トランスファー」「排泄」「入浴」「更衣動作」	おんまえどおり地域サロン	西村	19
	2019/6/7	②介護技術の基礎「食事」「口腔ケア」「スキンケア」	おんまえどおり地域サロン	西村	21
	2019/7/5	③介護技術の基礎「認知症の基礎理解」「BPSDの捉え方」	おんまえどおり地域サロン	杉原	21
	2019/8/2	④介護技術の基礎「緊急時・事故対応」「高齢者虐待・身体拘束」	しんらん交流館	西村	21
	2019/9/6	⑤介護技術の基礎「観察・記録」「介護過程の展開・情報収集」	しんらん交流館	西村	21
	2019/10/4	⑥介護技術の基礎「観察・記録」「介護過程の展開・事例演習」	おんまえどおり地域サロン	西村	21
	2019/11/1	⑦感染症対策実習	おんまえどおり/きたおおし	清水他	29
	2019/12/6	⑧介護技術の基礎「高齢期の特徴」「疾患理解」	おんまえどおり地域サロン	西村	19
	2019/1/24	⑨介護技術の基礎「尊厳と倫理」ケアを振り返り再考する	おんまえどおり地域サロン	村田	18
	2019/2/7	⑩介護技術の基礎「食生活を支える 口腔機能」「ターミナルケア」	おんまえどおり地域サロン	片山/西村	19
					209
④専門研修Ⅱ	2019/5/31	①介護技術の応用と展開「トランスファー・介護技術の基本振り返り」	おんまえどおり地域サロン	杉原	16
	2019/7/26	②介護技術の応用と展開「対象者に合わせた生活支援と環境づくり」	しんらん交流館	村田	15
	2019/9/27	③介護技術の応用と展開「ケアにつながる観察記録」介護過程展開Ⅰ	しんらん交流館	西村	16
	2019/11/22	①介護技術の応用と展開「介護過程展開Ⅱ・Ⅲ」	おんまえどおり地域サロン	西村	15
2019/1/31	①介護技術の応用と展開「コミュニケーション」「OJT」「チームケア」	おんまえどおり地域サロン	杉原	15	
					77
⑤専門研修Ⅲ (OJTリーダー)	2019/6/28	①介護過程に基づく技術・知識の展開「OJTの基礎理解」「チーム課題の整理」	おんまえどおり地域サロン	村田/西村	15
	2019/8/23	②介護過程に基づく技術・知識の展開「多職種連携」	おんまえどおり地域サロン	村田	14
	2019/10/25	③介護過程に基づく技術・知識の展開「家族介護・自己の介護観の振り返り」	おんまえどおり地域サロン	村田	13
	2020/12/24	④介護過程に基づく技術・知識の展開「対象者に合わせて創造する介護」	おんまえどおり地域サロン	西村	14
	2020/2/28	⑤介護過程に基づく技術・知識の展開「事例検討の基礎知識」	おんまえどおり地域サロン	中止	0
					56
⑥リーダー研修	2019/5/16	①チーム運営の基礎「リーダーシップ・チームづくり」	おんまえどおり地域サロン	村田	12
	2019/7/17	②チーム運営の基礎「チーム課題の整理」	おんまえどおり地域サロン	村田	14
	2019/9/17	③チーム運営の基礎「コミュニケーションの基礎技術」	おんまえどおり地域サロン	村田	16
	2019/11/29	④チーム運営の基礎「コーチング」「ファンリレーション」	おんまえどおり地域サロン	村田	11
	2020/1/16	⑤チーム運営の基礎「ストレスマネジメント・リスクマネジメント」	おんまえどおり地域サロン	西村	14
	2020/3/6or12	⑥チーム運営の基礎「自己のケアの振り返り・リーダーとしての展望」	おんまえどおり地域サロン	中止	0
					67
⑦リーダー・役職者合同研修	2019/7/17	①人の身体や構造の理解「リハビリテーション概論」	おんまえどおり地域サロン	小菅	21
	2019/9/17	②人の身体や構造の理解「生活に必要な運動学」	おんまえどおり地域サロン	小菅	22
	2019/11/29	③人の身体や構造の理解「生活支援に生かすリハビリテーションの視点」	おんまえどおり地域サロン	小菅	19
					62
⑧役職者研修	2019/6/20	①スーパービジョンの基本理解	おんまえどおり地域サロン	西村	12
	2019/8/30	「リーダーシップとチーム作り」「コミュニケーションとファシリテーション」	おんまえどおり地域サロン	西村	10
	2019/10/30	「コミュニケーションとコーチング」行動計画中間振り返り	しんらん交流館	西村	10
	2019/12/11	「会議・カンファレンスの運営Ⅰ・Ⅱ」	しんらん交流館	西村	10
	2019/2/18	「問題解決思考法Ⅱ」行動計画発表の為のプレゼンテーション技術	おんまえどおり地域サロン	村田/西村	8
					50
⑨資格取得研修	2019/6/21	介護福祉士 受験対策講座	きたおおし 地域サロン	杉原	5
	2019/7/19	介護福祉士 受験対策講座	きたおおし 地域サロン	杉原	5
	2019/8/23	介護福祉士 受験対策講座	きたおおし 地域サロン	村田	5
	2019/7/12	介護支援専門員 受験対策講座	きたおおし 地域サロン	堀田	5
	2019/8/9	介護支援専門員 受験対策講座	きたおおし 地域サロン	堀田	5
	2019/9/20	介護福祉士 受験対策講座	きたおおし 地域サロン	杉原	5
	2019/9/13	介護支援専門員 受験対策講座	きたおおし 地域サロン	堀田	5
	2019/10/18	介護福祉士 受験対策講座	きたおおし 地域サロン	坂田	5
	2019/11/15	介護福祉士 受験対策講座	きたおおし 地域サロン	杉原	5
	2019/12/20	介護福祉士 受験対策講座	きたおおし 地域サロン	西村	5
2020/1/17	介護福祉士 受験対策講座	きたおおし 地域サロン	杉原	5	
2019/2/	介護福祉士 受験対策講座(技術)	対象者なし		0	
					55
⑩実務者研修	2019/9/12	医療的ケア 演習	京都保育福祉専門学校	西村/百目鬼	14
	2019/9/13	医療的ケア 演習	京都保育福祉専門学校	西村/百目鬼	14
	2019/10/16	スクーリング 介護過程の展開Ⅲ	きたおおし地域サロン	杉原/戸右/辻	14
	2019/10/22	スクーリング 介護過程の展開Ⅲ	きたおおし地域サロン	杉原/戸右/辻	14
	2019/11/6	スクーリング 介護過程の展開Ⅲ	きたおおし地域サロン	杉原/戸右/辻	14
	2019/11/12	スクーリング 介護過程の展開Ⅲ	きたおおし地域サロン	杉原/戸右/辻	14
	2019/12/4	スクーリング 介護過程の展開Ⅲ	きたおおし地域サロン	杉原/戸右/辻	13
2019/12/10	スクーリング 介護過程の展開Ⅲ	きたおおし地域サロン	杉原/西村	13	
					110
⑩ファーストステップ研修	2019/8/1・6	高齢者の尊厳と倫理	おんまえどおり地域サロン	村田	5
	2019/9/20・21	ニーズと行動への気づきと対応	おんまえどおり地域サロン	西村	5
	2019/10/11・12	・コミュニケーションの方法と応用	おんまえどおり地域サロン	村田	5
		・中堅職員としてのリーダーシップ	おんまえどおり地域サロン	村田	4
	2019/11/8・9	・職種間連携の実践的展開	おんまえどおり地域サロン	村田	5
	2019/12/5・13	・観察・記録の的確性	おんまえどおり地域サロン	杉原	5
		・セーフティマネジメント	おんまえどおり地域サロン	坂田	5
・介護職員の健康・ストレス管理		おんまえどおり地域サロン	西村	5	
2020/1/9	・家族や地域の支援力活用と強化	おんまえどおり地域サロン	杉原	5	
2020/2/12・13	・問題解決のための思考法	おんまえどおり地域サロン	杉原	3	
	・目職場課題の分析	おんまえどおり地域サロン	村田	5	
					52

研修名	合計日数	延べ参加人数
①新卒新人研修	8日	151名
②中途採用新人研修	0日	0名
③専門研修Ⅰ	10日	209名
④専門研修Ⅱ	9日	77名
⑤専門研修Ⅲ	5日	56名
⑥役職者研修	6日	67名
⑦リーダー研修	6日	67名
⑧資格取得研修	11日	55名
⑨実務者研修	8日	110名
⑩ファーストステップ研修	13日	52名
	65日	844名

第4章 スーパーバイザーによる巡回事業

1. 事業の概要

この章では、グループの特徴的な事業として、前章で報告したリガーレグループの研修事業に先駆けて平成24年度後半から開始した、リガーレグループのスーパーバイザー（以下、SV）による巡回事業について報告する。その経緯については、平成29年度「地域の介護等事業者の経営管理連携推進事業—介護人材の確保・定着に向けた複数の社会福祉法人による共同事業—」報告書において、形成過程を段階的にまとめて報告ところであるので、ここでは令和元年度を中心に報告する。

SV事業によるグループ法人の巡回は、法人ごとの課題を「研修・人材育成」「会議・記録(情報共有)」「組織性・組織機能」「設備・環境」「職員配置」「暮らしの支援」6つの視点で整理し、課題共有し、解決および改善に進む過程にSVとして介入、助言、伴走していく。SVはリガーレ統一研修の講師でもあり、巡回で発見した現場の課題は、研修を組み立てる際の重要な情報となっている。つまり、研修事業とスーパーバイズ事業は車の両輪のような関係であり、そのあり方は現在も変わらない。

一方で、経年的な変化もある。令和元年度においては、そのことが比較的顕著に表れた側面もあった。それは、グループ法人の課題の個別性、事情に合わせて、SVが介入する内容や巡回の頻度が整理されていった。リガーレグループのアセスメントシートで示された、AS1「研修・人材育成」、AS「会議・記録(情報共有)」場面でのサポートや介入が内容としても頻度としても多くを占めた。

2. 法人巡回によるスーパーバイズ事業の内容

具体的に以下のようなことを行っている。

- ① 事業所内の研修体系の整理
- ② OJTの仕組みづくり支援
- ③ 会議体系の整理
- ④ 会議・カンファレンス運営の方法への介入
- ⑤ 情報共有の仕組みづくり
- ⑥ 個別ケース支援の相談
- ⑦ 役職者のマネジメント課題相談・リーダーのチーム課題相談
- ⑧ 人間関係の調整

3. 令和元年度SV巡回実績

昨年度同様にリガーレ統一研修と合わせて人材育成の支援、会議等に参加して会議の機能的に活かすサポートなどが軸となってきた。人材育成の支援については、昨年いくつかの法人で実施したOJTの仕組みづくりへの介入やサポートの次の段階のとして、現場の育成担当者を育成に関する介入支援を行った。例えば、エルダー制度におけるエルダーの会議への参加とスーパーバイズ、現場で研修を担う主任者に対して研修の組立や内容その結果の振り返りといった一連の過程への介入とサポートなどがあった。

法人	回数	内容
A	3 5回	・経営会議、主任会議 ・マネジメント課題の整理
B	1 4回	・特養主任級会議、特養主任・チーフ会議出席 ・事例相談
C	3回	・マネジメント課題整理 ・人材育成課題整理
D	1 4回	・副主任会議に出席 ・エルダー振り返り会議 ・マネジメント課題の整理
E	4 2回	・マネジメント課題の整理 ・事例相談 ・行動計画会議・主任級会議・介護会議・BS 育成会議等出席 ・マネジメント課題の整理 ・主任級職員研修・外国人技能実習生受け入れプロジェクト

3. 今後の課題

スーパーバイズ事業は、その効果や成果を客観的な指標ではかることが難しい。それは、人材やチームが生みだすケアやサービスの中に現れるのであるが、ケアやサービス自体、無形であり消滅するという特性があり、評価が難しいうえに、どの部分がSVの働きかけで出現したのか限定することは困難である。一方で、平成28年度グループ法人の経営者、管理者、監督職を対象に行った研究者による訪問ヒアリングでは、法人内では気づかなかったことを他者の客観的視点で助言をうけることができる。事例の相談やアドバイスだけでなく、会議に参加、会議の運営を通じて助言が行われるといったこと効果をあげているといった調査結果があった。

SVの働きかけを施設・事業所でどのように取込み活かすかは、法人ごとの体制や環境によっても異なるが、SVの動きは、毎月のリガーレグループの責任者による責任者会議でも報告している。責任者会議で、SVが巡回等で把握した課題と責任者が捉えているマネジメントの課題を共有することで互いに問題意識を高め、スーパービジョンの受け入れを促し、研修参加への動機づけになってきたと考えられる。このようなデリバリー型のスーパービジョン(汲田)は、先駆的な取り組みやお手本が少ない事業だけに、今後も研修事業と合わせてグループ化におけるSVの役割と機能の模索しながら行っていくことになるであろう。

*リガーレの責任者会議で、各法人の責任者がマネジメントの報告を行う際の様式

AS 項目	現状	課題
AS1 研修・ 人材育成	例えば：施設内研修状況 受講状況 科目 人数 施設外研修受講状況 リガーレ研修受講状況 次年度の研修計画 人材育成の状況	
AS2 情報共有 会議・記録	例えば：会議への意図的な介入 新たな取 り組み等	
AS5 職員配置	例えば：入・退職者数 チームの状況、技能実習生成長に伴うチー ムの変化等	
AS6 暮らしの支援	例えば：地域活動 利用者の社会参加 利用者家族との関係	
その他	例えば：次年度事業計画 年度目標最終まとめ等	

令和2年度研修参加予定人数

採用時研修	専 門 I	専 門 II	専 門 III	リ ー ダ ー	役 職 者	合 同 研 修	実 務 者	CM 受 験 対 策	介 護 福 祉 士 受 験 対 策

第5章 リガーレ人材確保共同事業

1、これまでの経緯

リガーレグループでは、平成27年2月に（株）学情が企画する「キャリアデザインフォーラム」にグループとして初めて出展し、グループとしての広報活動を開始した。ここでは、パンフレットの内容の整理やブースに来た学生を繋げていくしくみ、福祉の魅力の発信などが課題として表出した。給与・キャリアパスの一元化、グループでの広報活動の必要性が明確になり、その後も継続して検討されてきた。平成28年度グループ化の推進事業として「小規模法人のネットワーク化による協働推進事業」により、給与・キャリアパス一元化委員会、広報プロジェクトとして推進していく流れとなった。

平成28年度から準備し、平成29年より共同募集を始めてきたが、リガーレグループとしては「2020年」を本格的なスタートと設定した。そのため、令和元年度からリガーレ人材確保部門を新たに設置し、人材共同募集専任職員を配置することとなる。

2、今年度の活動

(1) リガーレ人材担当者

令和元年度から、新たに人材共同募集専任職員を配置し、リガーレグループの人材確保事業を強化した。また、各法人からリガーレ人材担当者を選任し、毎月1回人材募集に関する会議をおこなってきた。リガーレ人材担当者は、リガーレグループの人材確保に関する活動について、法人理事長をはじめとする経営陣等や、介護現場統括者をはじめとするリーダークラスの方々、そしてリクルーターなど直接活動に参加する若手等職員に対して、活動状況やその他情報を提供し、法人全体で情報共有を図るなど法人一体となった活動のキーマンとして、また、「リガーレ人材確保専任職員」と常に連携して、リガーレ共同募集など、リガーレの人材問題に関する中核人材としての役割を担うこととなった。

今年度は、とりわけ新卒採用活動に注力し、学生にリガーレグループの活動とその魅力をより知ってもらうことを目標に、フライヤーやパンフレットなどの広報ツールの企画刷新、おもてなしバスツアーを含むインターンシップ活動、大学・専門学校への訪問巡回、ホームページの刷新やリクルーターの育成などについて協議し、グループ各法人が一体となって活動をおこなってきた。

令和2年度は、前年度の活動によりアプローチしてきた学生がグループ各法人への就職に結びつくことを目指して、各リガーレ人材担当者を中心に採用体制を整えていくことを目標とする。また、リクルーターチームなどの若手職員の力を活用し、学生のニーズに合った広報や募集活動を推進していく。その他、リガーレグループに設置される働き方改革検討委員会と共同での給与・休日・キャリアパスなどの在り方の検討、外国人の受け入れに関する調査研究、きょうと福祉人材育成認証制度を活用した働きやすい成長できる雇用環境の整備、そして、リガーレグループで採用した職員の育成・定着の実現を目指す取り組みと人事交流なども重要な目標としている。

(2) リクルーター活動

平成 29 年度より、リガーレグループでの新卒学生採用に向けて、リガーレ各法人若手職員を中心にリクルーターチームが結成され、活動を行ってきた。平成 29 年度が第 1 期リクルーターチーム、平成 30 年度が第 2 期リクルーターチーム、令和元年度が 3 期リクルーターチームとして活動を継続してきている。

リクルーターチームは、毎月 1 回会議を開催し、学生に向けたインターンシップ「おもてなしバスツアー」や就職フェアについて企画し話し合いを重ねてきた。

今年度 6 月までは第 2 期のリクルーターチームが活動し、昨年度 11 月から始まった 2020 卒に向けた「リガーレおもてなしバスツアー」の企画運営を継続してきた。

令和元年 8 月から第 3 期リクルーターチームが誕生し、秋に向けたインターンシップや就職フェアに向けて始動した。第 3 期リクルーターチームのメンバーは多くが入職 1 年目の職員で結成されており、1 期、2 期で活躍したリクルーターがアドバイザーとしてサポートを行った。そして、第 3 期リクルーターチームは、以下のリクルーターチームの役割を共有し、自らのミッションと成長を目指して活動が始まった。

(リクルーターチームの役割)

- ・新卒採用リクルーターのコアメンバーとして、これから就職を目指す学生（福祉を目指す人、福祉以外を学んできた人）に向けて、リガーレグループの魅力、所属法人の魅力等を発信する。
- ・新卒採用リクルーターとして、インターンシップ（バスツアー含む）や就職フェアに主体的に関り、参加学生との良い関係を築く。
- ・学生に対して、リクルーターは専門職の立場を意識して話を進める。
- ・リクルーターは、リクルーター活動を通して自己の成長につながるような目標を持って活動に臨めるようにする。

第 3 期リクルーターチームは、秋から始まった 3 コースの「おもてなしバスツアー」、FACE to FUKUSHI 主催の「インターンシップ in 京都」「FUKUSHI meets! 就職フェア」に向けて企画運営を勧めてきた。

また、FACE to FUKUSHI 主催の「若手職員向け福祉の魅力発信力向上セミナー」全 3 回の研修にリガーレグループとしてのプレゼンテーションスキル向上を目標に、3 名のリクルーターが参加し、各回受講ごとにリクルーター会議で伝達研修を行った。3 回目受講後には、リガーレグループの魅力を伝えるスライドを作成し、それを就職フェアで活用を計画するなどの成果をもたらした。

残念ながら、新型コロナウイルスの影響により「FUKUSHI meets! 就職フェア」は中止となり、企画した活動が叶わなかったが、この活動を通して、リガーレグループとしての繋がりを体感し、また各法人の就職フェア等、採用活動に寄与するなど、自らの成長に繋がっていった。

FACE t o FUKUSHI

「若手職員向け福祉の魅力発信力向上セミナー」

目的：就職フェアや採用説明会等で、若手職員が所属法人や福祉の仕事の魅力を発信するプレゼンテーションスキルを身に付ける。		
対象：若手職員（入職1から5年目程度の20代の職員）		
会場：イオンコンパス大阪駅前会議室		
参加者：（北桑会）1名（リガーレ暮らしの架け橋）2名		
第1回	令和元年11月28日（木）	福祉のやりがい、働く原体験を振り返る
第2回	令和元年12月19日（木）	学生目線で法人の魅力を言語化し、伝わるプレゼンの基本を学ぶ
第3回	令和2年1月22日（水）	法人の魅力を伝えるプレゼンの実践&フィードバック

(3) インターンシップ

1) おもてなしバスツアー

平成29年度より、新卒学生採用に向けて、インターンシップの一環としてグループ法人をバスで巡るツアーをリクルーターチームが中心となり企画運営を行い実施している。

今年度は、平成31年度3月から始まっている「2020卒」向け「おもてなしバスツアー」のうち、・4月20日（土）京都市内コース（松光会・リガーレ暮らしの架け橋・宏仁会（スカイプ）・いまくまの（端山園））、・5月18日（土）京都北部コース（はしうど福祉会・北桑会）が実施された。今回から、学生（4回生）1名がスタッフ参加をし、バスツアー中の動画を作成しバスツアーを通したリガーレグループの魅力発信に協力してくれた。そのコンテンツを各法人に配布し、各法人の参加する就職フェアなどでも紹介することができた。

「2021卒」向けの「おもてなしバスツアー」は第3期リクルーターが中心に企画運営を行った。日程・コースは次の通り。①10月19日（土）京都北部・京北コース（北桑会・はしうど福祉会）②11月2日（土）京滋コース（六心会・緑寿会）③11月30日（土）京都市内コース（端山園・リガーレ暮らしの架け橋・宏仁会（スカイプ））。今回は、前年度の振り返りから「おもてなし」は十分に伝わったが、学生から「もう少しリクルーターの話が聞きたかった」との意見があったことから、体験型のインターンシップとリクルーターと話せる時間を持つことをコンセプトに企画された。その結果、参加学生から「介護に興味を持った」「将来に影響する経験をした」「こんなところで働きたい」といった前向きな意見をもらうことができた。

リクルーターが主体的に企画運営に関わることで、若い職員が自らリガーレグループについての在り方を考えることができ、自身の成長も促したが、所属する法人も積極的な活動が意識され、グループとしての活動の見える化が促進されたと考えられる。

学生は「おもてなしバスツアー」に参加することで、普通のインターンシップでは実現できない遠方の法人や複数の法人を一度に訪れることができ、法人ごとの特徴や地域性などを知る機会となり、福祉の職場をより身近に感じ興味を持つきっかけになったと思われる。

2020卒向け（2019春） リガーレおもてなしバスツアー参加者集計										
ツアーコース別	学校別		学年別（回生）					学部		内容
	学校	人数	1	2	3	4	その他	福祉系	福祉系以外	
3/20 京滋コース	龍谷大学	2名			2名			2名		六心会⇒ 近江商人屋敷散策
六心会	花園大学	1名			1名			1名		施設見学・昼食・座談会
緑寿会					4月から4回生					緑樹会⇒ 施設見学
端山園										端山園⇒ 醍醐寺散策・施設見学
	小計	3名			3名			3名		
4/20 市内コース	立命館大学	3名			2名	1名		3名		松光会⇒ 施設見学
松光会	佛教大学	1名				1名		1名		宏仁会⇒ きたおおじサロンにて、
宏仁会	福井県立大学	2名				2名		2名		スカイプによる職員の声の紹介
きたおおじ	京都医療福祉専門学校	1名					1名	1名		きたおおじ⇒ 今宮神社参拝・新大宮商店街紹介
いまくまの（端山園）										施設見学・座談会
	小計	7名			2名	4名	1名	7名		いまくまの⇒ 施設見学
5/18 北部コース	佛教大学	1名					1名	1名		北桑会⇒ 森林公園でジビエBBQ
北桑会	大谷大学	1名					1名		1名	施設見学
はしうど福祉会	京都文教大学	1名					1名		1名	はしうど⇒ いちご狩り
	立命館大学	2名					2名	2名		施設見学
	小計	5名					5名	3名	1名	

全体（学校別）	学校	人数	学年					学部	
			1回生	2回生	3回生	4回生	その他	福祉系	福祉系以外
	佛教大学	2名						2名	
	龍谷大学	2名						2名	
	花園大学	1名						1名	
	立命館大学	5名				2名	3名	5名	
	大谷大学	1名					1名		1名
	京都文教大学	1名					1名		1名
	福井県立大学	2名					2名	2名	
	京都医療福祉専門学校	1名						1名	1名
	合計	15名				2名	12名	13名	2名

2021卒向け（2019秋） リガーレおもてなしバスツアー参加者集計										
ツアーコース別	学校別		学年別（回生）					学部		内容
	学校	人数	1	2	3	4	その他	福祉系	福祉系以外	
10/19北部・京北コース	佛教大学	6名（欠1）	5名	1名				6名（欠1）		はしうど⇒施設見学GHでの食事
はしうど福祉会	大谷大学	1名	1名						1名	・プチ介護教室
北桑会	花園大学	1名	1名						1名	北桑会⇒施設見学・カフェ
	京都女子大学	2名		2名				2名		
	高校生	1名					1名		1名	
	小計	11名（欠1）	7名	2名	1名		1名	8名（欠1）	3名	
11/2京滋コース	佛教大学	2名	1名	1名				2名		六心会⇒ 施設見学
六心会	同志社大学	2名		2名				2名		地域ボランティアによる
緑寿会	立命館大学	2名			2名			2名		フラワーアレンジメント
	大谷大学	1名	1名						1名	昼食・職員との懇談
	華頂社会福祉専門学校	1名					1名	1名		緑寿会⇒ 施設見学
	小計	8名	2名	3名	2名		1名	7名	1名	利用者とおやつ作り（DS）
11/30市内コース	佛教大学	1名（欠3）	欠	1名				1名（欠3）		端山園⇒ 醍醐寺散策・施設見学
端山園	京都女子大学	2名			2名			2名		昼食・利用者、職員との懇談
宏仁会	同志社大学	2名		1名	1名			1名	1名	宏仁会⇒ きたおおじサロンにて、
きたおおじ	京都府立大学	1名				1名		1名		スカイプによる職員の声の紹介
	大谷大学	2名	2名					1名	1名	きたおおじ⇒ 施設見学
	京都産業大学	1名			1名				1名	利用者とおやつ作り・散歩
	光華女子大学	1名			1名				1名	座談会
	小計	10名（欠3）	2名	2名	4名	2名		6名	4名	

全体（学校別）	学校	人数	学年					学部	
			1回生	2回生	3回生	4回生	その他	福祉系	福祉系以外
	佛教大学	9名（8名）	6名	2名（1名）	1名			9名（8名）	
	京都女子大学	4名		2名	2名			4名	
	同志社大学	4名（3名）		3名（2名）		1名		3名（2名）	1名
	大谷大学	4名（3名）	4名（3名）					1名	3名（2名）
	立命館大学	2名			2名			2名	
	京都府立大学	1名				1名			1名
	花園大学	1名	1名					1名	
	光華女子大学	1名			1名				1名
	京都産業大学	1名			1名				1名
	華頂社会福祉専門学校	1名					専門学校1名	1名	
	高校生	1名					高校生1名		1名
	合計	29名（26名）	11名（10名）	7名（5名）	7名	2名	2名	21名（19名）	8名（7名）

2) インターンシップ講習会

学校の担当教師などの勧めもあり、今年度は昨年にも増して学生がインターンシップを重要視していることが明らかになった。リガーレグループとしても、各法人が足並みをそろえて有意義なインターンシップ受け入れに臨めるようにするために、まず、各法人の現在行っているインターンシップを整理するためにアンケートを行った。その結果、インターンシップの内容や実績数にばらつきが見られた。また、各法人それぞれの課題も浮かんできた。そこで、今の学生の動向と学生が求めるインターンシップについて京都府福祉人材サポートセンターに講師を依頼し講座を2回開催した。対象は、1回目（6月11日）は各法人の主にインターンシッププログラムを担当している職員、2回目（6月25日）はダイジェスト版をリガーレ人材担当者に向けて行った。ダイジェスト版はDVDにし、各法人へ配布し、法人全体で共有できるようにした。

この講習会を受講し、人材担当者からは「最近の動向や学生の求めているもの、価値観を知ることができた」などの意見があり、今後のインターンシッププログラムを作成する上で学生のニーズに沿ったプログラム作成などに大変参考になった。

3) インターンシップ in 京都

主催：FACE to FUKUSHI

日時：令和元年12月22日（日） 12時30分～16時30分

会場：京都産業会館ホール

出展法人：南山城学園、みねやま福祉会、福知山学園、リガーレグループ

出動職員：リレープレゼン、人事担当ブース・・・六心会1名

フクシゴトブース・・・北桑会1名（リクルーター）

法人ブース・・・六心会1名 リガーレ暮らしの架け橋3名（リクルーター）

主催スタッフ応援・・・リガーレ本部1名

来場学生：43名 内リガーレブース16名

卒業年（学年）	2020（4）	2021（3）	2022（2）	2023（1）
佛教大学	1	3	2	1
京都女子大学		2		
同志社大学			1	
龍谷大学		2		
龍谷短大		1（1）		
立命館大学		1		
高知県立大学		2		
合計	1	11	3	1

リガーブース来訪学生のうち、「おもてなしバスツアー」に申し込み参加の学生が3名、別の1名は福祉系学部でなく、今まで興味のなかった分野だが学校でリガーレのチラシを見て興味を持ちブースに来訪、その後グループ法人のインターンシップに参加した。徐々にではあるが、バスツアーから個別インターンシップへと繋がり、リガーレグループの活動の周知が広まっていく経過が見られる。

今後の課題は、ブースに来てくれた学生がグループ各法人のセミナーや見学会などに足を運んでくれる働きかけを着実にやることである。

(4) 広報活動

1) 大学・専門学校訪問

今年度から、京都・滋賀の福祉系学部のある大学・福祉介護系専門学校等21校を訪問し、リガーレグループの取り組みや学生に向けたインターンシップなどのインフォメーションを行った。大学でのインフォメーションについては、繋がりのある先生19名への訪問と共に、一部の先生には講義の中で時間をいただき直接学生に伝えることができた。また、大学キャリアセンターにおいては、18名の担当者と交流を重ねリガーレグループについて広報をすることができた。

リガーレグループを訪問してくれた学生の中には、先生からリガーレを勧められたり、学校でよくリガーレの広報物を目にするという人たちもおり、学校訪問によりリガーレグループの周知が進んだ効果があったと思われる。

今後は、インフォメーションだけでなく学生とコラボレーションをしてリガーレグループで取り組みができる関係性を築いていきたい。

2) 新卒学生の就職活動に向けた広報ツール

① 「リガーレおもてなしバスツアー」リーフレットの作成

前述のとおり平成29年度から行ってきた企画であるが、前年度のリーフレットのデザインをもとに、リクルーターが企画する内容に沿って更新を行った。特に、今年度バス

ツアーのコンセプトのキャッチコピー『～毎日の暮らし、日常にある豊かさを体験～「地域に根づく」ってこういうこと。』を挿入し、学生に地域との繋がりを知ってもらう表現をした。また、デザインを1ページ、参加した個々の学生の表情を表す写真を用いることで、学生がより親しみを持って手に取ってくれることを目指した。

学生からは、「楽しそうな企画で興味を持った」「写真がきれいでこんなところに行ってみたいと思った」などリガーレグループに注目をしてくれるツールとなった。

さらに、今回のバスツアーの様子を動画コンテンツに編集し、学生に「おもてなしバスツアー」様子やリガーレグループの活動として伝えるツールとして用いることができた。

2019 Ligare presents
OMOTENASHI BUS TOUR Press
 10.19 (SAT) / 11.2 (SAT) / 11.30 (SAT)

「地域の暮らし、日常にある豊かさを体験～
**「地域に根づく」って
 こういうこと。**

社会福祉法人グループリガーレもぐもぐおもてなしBUSツアー

Course 1 10月19日(土) 北部・東北コース
Course 2 11月2日(土) 京滋コース
Course 3 11月30日(土) 京都市内コース

おもてなしBUSツアーのお申込みはこちら

075-366-8025 (TEL) 075-366-3006 (FAX) kitoo@iss.ligare.ne.jp

10月19日 北部・東北コース
 11月2日 京滋コース
 11月30日 京都市内コース

Tour Course 1
 10:00 出発
 10:30 津和野 津和野温泉
 11:00 津和野 津和野温泉
 11:30 津和野 津和野温泉
 12:00 津和野 津和野温泉
 12:30 津和野 津和野温泉
 13:00 津和野 津和野温泉
 13:30 津和野 津和野温泉
 14:00 津和野 津和野温泉
 14:30 津和野 津和野温泉
 15:00 津和野 津和野温泉
 15:30 津和野 津和野温泉
 16:00 津和野 津和野温泉
 16:30 津和野 津和野温泉
 17:00 津和野 津和野温泉
 17:30 津和野 津和野温泉
 18:00 津和野 津和野温泉
 18:30 津和野 津和野温泉
 19:00 津和野 津和野温泉
 19:30 津和野 津和野温泉
 20:00 津和野 津和野温泉
 20:30 津和野 津和野温泉
 21:00 津和野 津和野温泉
 21:30 津和野 津和野温泉
 22:00 津和野 津和野温泉
 22:30 津和野 津和野温泉
 23:00 津和野 津和野温泉
 23:30 津和野 津和野温泉
 24:00 津和野 津和野温泉

Tour Course 2
 10:00 出発
 10:30 津和野 津和野温泉
 11:00 津和野 津和野温泉
 11:30 津和野 津和野温泉
 12:00 津和野 津和野温泉
 12:30 津和野 津和野温泉
 13:00 津和野 津和野温泉
 13:30 津和野 津和野温泉
 14:00 津和野 津和野温泉
 14:30 津和野 津和野温泉
 15:00 津和野 津和野温泉
 15:30 津和野 津和野温泉
 16:00 津和野 津和野温泉
 16:30 津和野 津和野温泉
 17:00 津和野 津和野温泉
 17:30 津和野 津和野温泉
 18:00 津和野 津和野温泉
 18:30 津和野 津和野温泉
 19:00 津和野 津和野温泉
 19:30 津和野 津和野温泉
 20:00 津和野 津和野温泉
 20:30 津和野 津和野温泉
 21:00 津和野 津和野温泉
 21:30 津和野 津和野温泉
 22:00 津和野 津和野温泉
 22:30 津和野 津和野温泉
 23:00 津和野 津和野温泉
 23:30 津和野 津和野温泉
 24:00 津和野 津和野温泉

Tour Course 3
 10:00 出発
 10:30 津和野 津和野温泉
 11:00 津和野 津和野温泉
 11:30 津和野 津和野温泉
 12:00 津和野 津和野温泉
 12:30 津和野 津和野温泉
 13:00 津和野 津和野温泉
 13:30 津和野 津和野温泉
 14:00 津和野 津和野温泉
 14:30 津和野 津和野温泉
 15:00 津和野 津和野温泉
 15:30 津和野 津和野温泉
 16:00 津和野 津和野温泉
 16:30 津和野 津和野温泉
 17:00 津和野 津和野温泉
 17:30 津和野 津和野温泉
 18:00 津和野 津和野温泉
 18:30 津和野 津和野温泉
 19:00 津和野 津和野温泉
 19:30 津和野 津和野温泉
 20:00 津和野 津和野温泉
 20:30 津和野 津和野温泉
 21:00 津和野 津和野温泉
 21:30 津和野 津和野温泉
 22:00 津和野 津和野温泉
 22:30 津和野 津和野温泉
 23:00 津和野 津和野温泉
 23:30 津和野 津和野温泉
 24:00 津和野 津和野温泉

インターンシップ「おもてなしバスツアー」動画コンテンツ抜粋



②インターンシップ情報チラシを作成

夏休み用（2019年6月～7月配布）

秋冬用（2019年10月～11月配布）

春休み用（2020年1月～2月配布）

各法人のインターンシップの情報を冊子にして学校（福祉系学部の先生・キャリアセンター）を通して学生に配布した。各法人のインターンシップの具体的なプログラムをインフォメーションすることで、リガーレグループのそれぞれの法人をイメージしやすく低回生のインターンシップへの参加も促されたと考えられる。

社会福祉法人グループ リガーレ

リガーレとは、経営や活動エリアを
異にする社会福祉法人が集まり、
共同で事業を行うグループのことで、



社会福祉法人 端山園
京都市伏見区醍醐下端山町 36
【TEL】 075-573-7215 【職員数】 185名



社会福祉法人 六心会
東近江市五箇任川原町 288
【TEL】 0745-49-6000 【職員数】 184名



社会福祉法人 北条会
京都市右京区京北土中町 37ノ下 22
【TEL】 075-854-1002 【職員数】 242名



社会福祉法人 はしうど福祉会
京丹後市丹波町岩木 487
【TEL】 0772-75-2456 【職員数】 149名



社会福祉法人 兼寺会
京都市山科区大塚町清町 3
【TEL】 075-683-0800 【職員数】 76名



社会福祉法人 衣仁会
伊予市浜田 5-2-1 【TEL】 017-762-3333
徳安寺薬師 6 丁目 8-33 【TEL】 047-336-5678
【職員数】 224名



社会福祉法人 松光会
京都市左京区静中静原町 582 番地の 1
【TEL】 075-741-2866 【職員数】 83名



社会福祉法人 リガーレ暮らしの架け橋
京都市北区薬師大慈寺町 49-3
【TEL】 075-366-8025 【職員数】 107名

Ligare Talking

思いを共にする 8つの社会福祉法人が
集まって誕生したのがリガーレ
そこで働くみんなのリアルな声を集めました



社会福祉法人グループ リガーレ
Social welfare corporation group "Ligare"

リガーレグループにはあなただけの未来のカタチがあります

入社3年目

チームで仕事のおもしろ
さを実感しています。気づき、
感じたことを周りに伝えられ
ようになりました。



入社8年目

7人のチームのリーダーで
す。人間力が培われるポジ
ション。“やってみよう！”
が座右の銘です。



もっとリガーレ
を知りたい！

続きは📱で！
インターンシップや地域との
イベント情報も見られます。

入社2年目

商店街のイベントにも参加！
介護って地域を支える
仕事なんです。



マラソン完成！



入社5年目

趣味はマラソン。毎日の
通勤がトレーニング。
京都マラソン完走しました！

入社1年目

やってみたかったソー
シャルワーク。1年目
から挑戦しています。



New Face

入社3年目

バスツアーのリクレーターで
す。伝えることは難しいです
が、自分の可能性が広がる
気がしています。



他にもイベント
多岐参加
しています！



2019年秋冬インターンシップ

宏仁会 (青森県青森市)

宏仁会インターンシッププログラム秋冬 **3 DAYS**

- ①KAIGOのリアル、まるっと体験コース
- ②じぶん発見！チームワークビルドコース
- ③地域の暮らしを知る！フィールド体験コース

<p>① 地域社会の課題に気づき、行動しよう！</p> <p>【青森県福祉人ホーム】 (〒980-0801 青森市)</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護体験・見学 食事介助 口腔ケア ベッドメイキング アクティビティ 福祉施設見学 昼食 カンファレンス参加 	<p>② 職場から学べる仕事の面白さを知ろう！</p> <p>【法人本部】 (〒980-0801 青森市)</p> <ul style="list-style-type: none"> スタッフ体験 研修施設見学 福祉現場での体験 求人募集説明 	<p>③ 社会福祉施設人としてこのよりの地域実情が学べる！</p> <p>【社会福祉協議会・青森県福祉人ホーム】 (〒980-0801 青森市)</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会 福祉施設見学 福祉施設での体験 福祉施設での体験 福祉施設での体験 福祉施設での体験 福祉施設での体験 福祉施設での体験
--	--	--

※ ① ② ③ 各施設見学は予約制です。参加希望の方は事前に予約をお願いします。
※ ① ② ③ 各施設見学は予約制です。参加希望の方は事前に予約をお願いします。

日程の上、3日間の日程を決定します

11月1日～11月30日の3日間 (11/23) 10月23日
12月1日～12月26日の3日間 (11/22) 11月22日
1月6日～1月31日の3日間 (12/24) 12月24日

お申し込み方法・お問い合わせ

✉ メール chi.negane0@gmail.com

☎ 電話 017-762-5333

〒017-762 長根 知加 (Chiho Chika)

①お名前
②学校名・学部・学年
③希望職種
④希望のコース
※書いて送付してください。

はしうど福祉会 (京都府京丹後市)

地域との繋がりをを感じる 1 DAY インターンシップ **1 DAY**

福祉施設の地域との繋がりを体感 実際に提供しているケアを体感

10月19日(土)

「介護オープンデー」に参加
・ハンドマッサージ・生姜シップ他を体感

特別養護老人ホームいちがお園 (京都府京丹後市丹後町若木 487 番地)
※施設までの交通経路等につきましてはお電話ください

2019年10月16日(水)

お申し込み方法・お問い合わせ

✉ メール khigoo-kahntsu@stlawson.com

☎ 電話 0772-75-2496

〒647-0201 津水

・氏名
・電話番号
・メールアドレス
・学校名、学年
※書いて送付してください。

六心会 (滋賀県東近江市)

「学び」と「体験」インターンシップ **1 DAY**

知っているようで知らなかった、福祉・介護の世界 「知っているつもり」を体験で学んでみよう！ 高齢者介護のプロである六心会が福祉の奥深さを教えます。

<p>「学び」と「体験」コース 無日曜は随時決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び「人間の大切なこと」「福祉について学ぶ」 ・体験 高齢者、介護ベッド体験リフト体験、高齢者福祉施設など ・ディスカッション 感じたこと、知りたかったこと、書きだして、書きあいで。 <p>※ 各施設の予約制です。参加希望の方は事前に予約をお願いします。</p>	<p>※ 特別養護老人ホーム さいとう (〒525-0001 東近江市)</p>
---	--

<p>地域のなかの六心会を体験 六心会が運営しているイベントです。 特別養護老人ホーム さいとう (〒525-0001 東近江市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若いとサロン「エロソロジー」& トレーニング& カラオケ 10/3, 10/17, 11/7, 11/21, 12/5, 12/19 (各日 10:30~13:00) ※11/7 日 13:30 から演劇体験の体験もできます。 ・介護のイロハ勉強会 (お茶会+お勉強) 10/25, 11/29, 12/20, 1/21, 2/28 (各日 13:00~15:00) ・若いと高齢者交流会、てんびん俱樂部 11/28 (11:00~17:00) (〒525-0001 東近江市) ・若いとボランティアワークショップ 10/10, 11/5, 12/13 (10:00~11:00) (〒525-0001 東近江市) ・10/12(10:00~11:00) ・てんびんの集い(お茶会) 10/26(10:00~15:00) (〒525-0001 東近江市) <p>※ 各施設の予約制です。参加希望の方は事前に予約をお願いします。</p>

お申し込み方法・お問い合わせ

✉ メール chance@rokushinkai.com

☎ ホームページ www.6kokoro.com

☎ 電話 0748-48-5000 (老人ホーム常設)

〒525-0001 木村

1. 希望するコース名と日程
2. 氏名
3. 電話番号
4. メールアドレス
5. 学校名、学年
※書いて送付してください。

端山園 (京都市伏見区)

福祉現場がのぞける 1 DAY インターンシップ **1 DAY**

介護現場を1日で体験でき、 福祉のお仕事に触れるツアー

<p>12月 3日(水) 4(木) 5(金) 10:00~15:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者と一緒にレクリエーション体験 ・認知症について ・先輩職員とのティータイム 	<p>12月 17日(火) 10:00~15:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者と一緒にレクリエーション体験 ・認知症・寄り添い研究に参加 ・認知症について
---	---

ヴィラ端山 特別養護老人ホーム (京都市伏見区醍醐下端山町 36)

2019年11月1日(金) ~ 11月15日(金)

お申し込み方法・お問い合わせ

✉ メール vills001@vills.or.jp

☎ 電話 075-573-7215

〒612-0001 山内

・氏名
・学校名、学年
・電話番号
・希望日
※書いて送付してください。

北桑会 (京都市右京区)



チャレンジしたくなる 1DAY インターンシップ

1 DAY

多彩なプログラムで希望がかなう！
わくわく感満載！のインターンシップ

A	B	C
10月20日(日) 9:30~16:30	10月24日(日) 9:30~16:30	10月28日(日) 9:30~16:30
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の生活 施設入居施設に訪問 高齢者の暮らしを体験！ 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の生活 施設入居施設に訪問 介護現場での実習者と ユビユビトーク 施設内での体験活動 高齢者の暮らしを体験！ 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の生活 施設入居施設に訪問 介護現場での実習者と ユビユビトーク 施設内での体験活動 施設長の講話を聴く

※

高齢者総合福祉施設 しゅうざん
(京都市右京区北山福馬場 10番4) ※遠近可

申し込み期間

2019年10月8日(火) ~ 12月1日(日)

申し込み方法・お問い合わせ

メール

tomori@nshokokai.com

- お名前
 - 学校名・学部・学年
 - 電話番号
 - 希望の日程コース
- ※書いて送付してください。

ホームページから

申込ページURL



☎ 電話

075-652-6220

☎ 大八木

緑寿会 (京都市山科区)



【人のためになる仕事】
先輩職員が教える介護業界について 1day!

1 DAY

人生の最後にどう生きるか、どう生きたいかを、
手助けすることが介護職の仕事です

10月1日~12月15日の間に開催予定
(10:15~17:00 ※山科駅から徒歩あり)

介護業界について 魅力をたっぷりお伝え！

- ・体験
(過去の研修や見学、レクリエーション、スタッフの介護実習など)
- ・振り返り、質疑応答
(介護・福祉のことだけでなく就職に関する不安や疑問など質問して下さい！)

この研修の思いを実現していく、そのために施設に来て頂くこと以外に、希望する方！

- ・家族として働きたい
- ・施設がないところがない
- ・研修・実習した後も働きたい
- ・賞金をとって、キャリアを積みみたい
- ・勤務が少なくていい
- ・人のためになる仕事がいい

人によって「働き方」の考え方は色々だと思います。
介護福祉は、まだまだ発展がある業界だと思っています。
是非を通して学びの場であることをご伝えていただければ幸いです！

※

特別養護老人ホーム 山科苑
(京都市山科区大塚野町3)

申し込み方法・お問い合わせ

マイナビ

まずは、
マイナビ 2021
へのエントリーをお願いします。
詳細は、マイナビ 2021 より
ご確認いたします。

☎ 電話

075-663-0800

☎ 吉田

ホームページ



✉ メール

yama@haen@ryoukai.com

リガーレ 暮らしの架け橋 (京都市北区)



一人ひとりの暮らしに合わせたプログラムに参加可能

1 DAY

- 地域と高齢者のつながりを実践から考える
- 介護の実際を体験しながら学ぶ

10月24日(木)	10月26日(土)	11月1日(金)	11月20日(水)
「高齢者福祉施設」に 参加して地域の福祉 を考える	「大宮東山町の ハロワファンレター に出よう！」 地域との繋がりを体験	ご利用者の経験談 について学ぶ。 学習の成果発表と 質疑応答。	高齢者福祉施設 (奉養所、実習等) 実際の介護の現場 と入居者との関係性
10月10日	10月18日	11月15日	

※

地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
(京都市北区紫野大徳寺町 49-3)

申し込み方法・お問い合わせ

メール

kitaooji@kitaooji.co.jp

1. 希望するコースと日程
 2. お名前
 3. 電話番号
 4. メールアドレス
 5. 学校名、学年
- ※書いて送付して下さい。

Webから

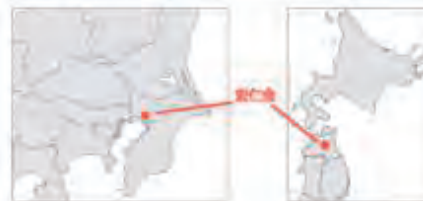


☎ 電話

075-366-8025

☎ 堀内

8つの社会福祉法人 所在地



2020年春休みインターンシップ



インターンシップ 2020 1月～3月

リガーレのインターンシップで ジェン update
～就職・人材・ケア・地域 知りたいリアルが ここにある～

8つの地域の8つの法人が用意する多彩なプログラムは
ワンストップでアクセスできる。
リガーレのインターンシップ・プログラム。
私達が体験して欲しいのは、介護のクリエイティブアイ。
地域で生きるダイナミズム。
何より「働くこと」の面白さです。

<https://ligarefukushi.com/>



- 宏仁会 (青森県青森市)
- 六心会 (滋賀県東近江市)
- 南山園 (千葉県市川市)
- 北島会 (東京都武蔵野市)
- 藤寿会 (東京都山形市)
- リガーレ 暮らしの届け方 (千葉県本庄市)

宏仁会 (青森県青森市) Ligare

宏仁会インターンシッププログラム改定

3 DAYS

- ①KAIGOのリアル、まるっと体験コース
- ②じぶん発見！チームワークビルドコース
- ③地域の暮らしを知る！フィールド体験コース

<p>① 就業する分野のリアルを身近に体験できる！</p> <p>【個人作業型】 (1日～2日勤務)</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護体験・見学 食事介助 口拭き介 ベッドメイキング アクティビティ 地域清掃活動 他 <p>カンファレンス参加</p>	<p>② 職員から教わられる知識・スキルが身につく！</p> <p>【法人作業型】 (1日～2日勤務)</p> <ul style="list-style-type: none"> スタッフ研修 研修企画立案 業務事務の体験 法人事務体験 	<p>③ 社会福祉法人ならではの暮らしを知る！</p> <p>【法人作業型】 (1日～2日勤務)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域福祉推進員体験 地域福祉推進員研修 「地域・福祉」の勉強会 福祉施設見学 福祉施設訪問 福祉施設訪問 福祉施設訪問
---	---	--

※ ①～③ 就業する分野から、希望の分野を選択していただく。

※ ①～③ 就業する分野から、希望の分野を選択していただく。

日程の上、3日間の日程を決定します

- 1月6日～1月31日の3日間 (休業日12月24日)
- 2月3日～2月28日の3日間 (休業日1月24日)
- 3月2日～3月19日の3日間 (休業日2月25日)

詳しくは以下の方法、お問い合わせ

✉ メール
chi.negane@gmail.com
①お名前
②学校名・学年・学年
③電話番号
④希望のコース
を書いて返信してください。

☎ 電話
017-762-5333
長根 知加
(0299-62)

はしうど福祉会 (東京都 京丹後市) Ligare

冬期 インターンシッププログラム 3 DAY

地域の特徴と支援を知る～冬の丹後の暮らし～
地域の特徴(時節・気候)に応じた支援の工夫とは？
地域密着型サービス・在宅支援他

2月1日(土)～2月29日(土)の内3日間

小規模多機能型施設
・会議、ミーティング参加
・「訪問」「通い」「泊り」の体験見学

配食サービス 居宅介護支援
・配食同行 居宅訪問同行
・サービス担当者会議等 参加

※ ①～③ 就業する分野から、希望の分野を選択していただく。

詳しくは以下の方法、お問い合わせ

✉ メール
chi@ao-tokai@isawa.co.jp
サイトURL: <http://www.isawa.co.jp/>
①お名前
②学校名・学年・学年
③電話番号
④希望のコース
を書いて返信してください。

☎ 電話
0772-75-2496
清水

六心会 (滋賀県東近江市) Ligare

「学び」と「体験」インターンシップ 1 DAY 3 DAYS

知っているようで知らなかった、福祉・介護の世界
「知っているつもり」を体験で学んでみよう！
高齢者介護の現場で働く六心会が福祉の現場を知ってほしい。

3Days インターンシップ「学び」と「体験」

2019年12/25(水)～27(金)
1日目: AM「学び」、一泊型研修への準備(食事、洗濯、風呂の準備など)～
PM「体験」、一泊型研修体験、介護体験
2日目: 研修のある専門研修(OM、SW、介護福祉体験他)
3日目: AM 専門研修 PM: フィールドバック(振り返り)

2020年1/27(月)～29日(水)

1日目: AM「学び」、一泊型研修への準備 / 入居の大切なこと～
PM「体験」、一泊型研修体験、介護体験
2日目: 研修のある専門研修への準備(地域福祉活動の展開体験への準備)
3日目: AM 専門研修 PM: フィールドバック(振り返り)

1Day インターンシップ

1/27(月) AM「学び」～研修への準備(食事、洗濯、風呂の準備など)～
PM「体験」、一泊型研修体験、介護体験
1/28(火) AM「学び」～研修への準備(食事、洗濯、風呂の準備など)～
PM「体験」、一泊型研修体験、介護体験
1/29(水) AM「学び」～研修への準備(食事、洗濯、風呂の準備など)～
PM「体験」、一泊型研修体験、介護体験
1/30(木) AM「学び」～研修への準備(食事、洗濯、風呂の準備など)～
PM「体験」、一泊型研修体験、介護体験
1/31(金) AM「学び」～研修への準備(食事、洗濯、風呂の準備など)～
PM「体験」、一泊型研修体験、介護体験

※ ①～③ 就業する分野から、希望の分野を選択していただく。

詳しくは以下の方法、お問い合わせ

✉ メール
chance@rokushinka.com
1. 希望するコース名と日程
2. 氏名
3. 電話番号
4. メールアドレス
5. 学校名、学年
を書いて返信してください。

☎ ホームページ
☎ 電話
0748-48-5000
(法人ホームセンター)
木村

端山園 (京都市伏見区)

福祉現場がのぞける 1 DAY インターンシップ

1 DAY

介護現場を1日で体験でき、
福祉のお仕事に触れるツアー

2月13日(木) 10:00 3月23日(月) 15:00	2月7日(金) 10:00 3月17日(火) 15:00
<ul style="list-style-type: none"> ご利用者と一緒にレクリエーション体験 認知症について 先輩職員とのティータイム 	<ul style="list-style-type: none"> ご利用者と一緒にレクリエーション体験 個別ケア研修体験(利用者と職員役になってロールプレイ) 認知症について

ヴィラ端山 特別養護老人ホーム
(京都市伏見区醍醐下端山町 36)

お申し込み方法・お問い合わせ

✉ メール
villa001@villa.or.jp
 ・氏名
 ・学校名・学年
 ・電話番号
 ・希望日
 を書いて送信してください。

☎ 電話
075-573-7215
 ☎ 総務部

北桑会 (京都市右京区)

チャレンジしたくなる 1 DAY インターンシップ

1 DAY

多彩なプログラムで希望がかなう！
わくわく感満載！のインターンシップ

① 1月26日(日) ② 2月16日(日) 9:30~16:30

- 施設機能の理解
- 短期入所送迎に同行
- 介護の現場でご利用者とコミュニケーション！
- しゅうざんCafeを体験！
- 事務室の業務をみてみよう

高齢者総合福祉施設 しゅうざん
(京都市右京区京北南山町高塚第10番4) ※送迎可

①2019年12月20日(金)~2020年1月18日(土)
②2019年12月20日(金)~2020年2月8日(土)

お申し込み方法・お問い合わせ

✉ メール
tsunagi@shokusan.co.jp
 ・氏名
 ・学校名・学年・学年
 ・電話番号
 ・希望の日数コース
 を書いて送信してください。

ホームページから
申込ページURL


☎ 電話
075-852-5220
 ☎ 大八木

緑寿会 (京都市山科区)

1 DAY インターンシップ

1 DAY

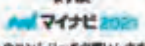
一度実際の現場を体験してみませんか？



令和2年1月~3月

特別養護老人ホーム 山科苑
(京都市山科区大塚野第3)

お申し込み方法・お問い合わせ

マイナビ
 まずは、

 へのエントリーをお願いします。
 期間は、マイナビ2021より
 送って送信いたします。

☎ 電話
075-693-0800
 ☎ 吉田

☎ メール
yama@nissai@yokujyuu.ac.jp

ホームページ


リガール 暮らしの架け橋 (京都市北区)

一人ひとりの関心に合わせたプログラムに参加可能

1 DAY

- 地域と高齢者のつながりを実践から考える
- 介護の実態を体験しながら学ぶ

1月23日(木) 10:00~17:00	1月25日(土) 10:00~16:30	1月26日(日) 10:00~16:30
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉施設(身体学、心理学) 高齢者の生活の実際 介護職員との研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉施設(身体学、心理学) 高齢者の生活の実際 「特別支援活動」にてご利用者との交流の様子を見る 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉施設(身体学、心理学) 高齢者の生活の実際 「ふれあい教室」で介護学生の実態を体験

1月15日(水)

地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
(京都市北区紫野大徳寺町 49-3)

お申し込み方法・お問い合わせ

✉ メール
kitaooji@naa2koeper.ne.jp
 1. 希望するコースと日数
 2. 氏名
 3. 電話番号
 4. メールアドレス
 5. 学校名、学年
 を書いて送信して下さい。

Webから


☎ 電話
075-366-8025
 ☎ 堀内



③リガーレホームページの充実

今年度、リガーレグループホームページの充実を目指して、ホームページプロジェクトを立ち上げ、各法人のインターンシップ情報が、随時リガーレホームページ採用情報のページで確認できるようにページを刷新した。全法人の情報が一つのページで閲覧できるようになり、ホームページを見てインターンシップへの申し込みもあった。

課題として、各法人の更新のばらつきや随時即時の更新ができていないことがある。次年度は即時更新をして、常に新しい情報を発信する必要がある。今後は体制を強化し、学生のホームページへのアクセスルートを明らかにし全体の構成を検討していくことが求められる。

3) リガーレグループの魅力を伝えるためのツール

①コンセプトブックの更新

リガーレグループを紹介するツールとして平成29年に初版を発行し、学生や関係機関をはじめ、様々な外部の人たちに配布をし、リガーレグループの魅力を発信してきた。初版から3年を経過し、新しい事業の開始など変化をしてきたため、今年度、増刷と共に事業数などの更新を行った。





社会福祉法人グループセンター
Social Welfare Group Center Japan

MESSAGE



社会福祉法人グループセンターは、社会福祉の発展を促進し、地域と人を育む社会福祉法人グループです。社会福祉法人グループセンターは、社会福祉法人グループの発展を促進し、地域と人を育む社会福祉法人グループです。社会福祉法人グループセンターは、社会福祉法人グループの発展を促進し、地域と人を育む社会福祉法人グループです。

社会福祉法人グループセンターの役割

- 社会福祉法人グループの発展を促進する
- 地域と人を育む社会福祉法人グループの発展を促進する
- 社会福祉法人グループの発展を促進する

社会福祉法人グループセンターの役割

社会福祉法人グループセンターは、社会福祉法人グループの発展を促進し、地域と人を育む社会福祉法人グループです。社会福祉法人グループセンターは、社会福祉法人グループの発展を促進し、地域と人を育む社会福祉法人グループです。

社会福祉法人グループセンターの役割

- 社会福祉法人グループの発展を促進する
- 地域と人を育む社会福祉法人グループの発展を促進する
- 社会福祉法人グループの発展を促進する

社会福祉法人グループセンター
Social Welfare Group Center Japan

②「COCOLO4号」の発刊

広報誌「COCOLO」発刊は、外部への広報と共にリガーレグループ内の職員に向けたインナープロモーションを目的にされている。リガーレグループでは、グループ活動開始期より、リガーレ統一研修とスーパーバイザーによる各法人事業所への巡回により介護現場でのスーパービジョンを繰り返し広げている。スーパーバイザーが関わることで、統一研修とケアの現場や組織が繋がり、職員個人やチーム・組織の確かな成長が見られている。その成長を本人やチーム・組織が自覚し、リガーレグループで共有することがスーパーバイザーの役割やスーパービジョンの効果が明らかにされると考えられる。

「COCOLO4号」では、「リガーレ統一研修」と「スーパーバイザー巡回によるスーパービジョン」により、スーパーバイザーが関わった職員本人の自己実現に向けた成長や、スーパーバイザーの意図的なチームへの働きかけにより組織が学習する組織に変化してきた効果を言語化することとした。その内容は以下の4点で、インタビューと座談会形式で行った。

- i、スーパーバイザーに対して、関わりや働きかけの視点についてインタビュー
- ii、スーパーバイザーの関りや統一研修を継続して受講することによって成長を感じたチームのリーダーや職員へのインタビュー
- iii、チームや職員の成長を見守った上司たちがリガーレのスーパービジョンを語る座談会
- iv、外国人技能実習生を紹介するグループインフォメーション

以上の構成から、リガーレグループが大切にしている人材育成や目指している組織の成長を支える仕組みが見える化し伝える内容とした。

+cocolo 4

10月1日(水)放送

介護の新しい現場をひらく
リハビリの現場に介護福祉士が活躍する

介護現場の新しい現場をひらく。リハビリの現場に介護福祉士が活躍する。介護現場の新しい現場をひらく。リハビリの現場に介護福祉士が活躍する。

+COCOLO 4

10月1日(水)放送

介護現場の新しい現場をひらく。リハビリの現場に介護福祉士が活躍する。

介護現場の新しい現場をひらく

リハビリの現場に介護福祉士が活躍する

介護現場の新しい現場をひらく。リハビリの現場に介護福祉士が活躍する。



介護現場の新しい現場をひらく。リハビリの現場に介護福祉士が活躍する。

介護現場の新しい現場をひらく。リハビリの現場に介護福祉士が活躍する。

+COCOLO 4

10月1日(水)放送

介護現場の新しい現場をひらく。リハビリの現場に介護福祉士が活躍する。

INTERVIEW

「社会が変わってどう変わった」介護現場を取り巻く人々それぞれの証言

SUPERVISION

介護現場の新しい現場をひらく。リハビリの現場に介護福祉士が活躍する。

介護現場の新しい現場をひらく。リハビリの現場に介護福祉士が活躍する。

SUPERVISION

介護現場の新しい現場をひらく。リハビリの現場に介護福祉士が活躍する。

介護現場の新しい現場をひらく。リハビリの現場に介護福祉士が活躍する。

SUPERVISION

介護現場の新しい現場をひらく。リハビリの現場に介護福祉士が活躍する。

(5) 外国人技能実習生の受け入れ

昨年度より、想定される日本国内の労働者人口減少を見据えて、リガーレグループ内で外国人雇用の検討を行ってきた。リガーレグループでは、平成 29 年度から管理団体N. T. トータルケア株式会社（以下NTトータルケア）との連携を始めており、昨年度はフィリピンからの技能実習生受け入れ手続きを端山園・北桑会・六心会の3法人が行った。今年度に入り、令和元年10月に6名の実習生が入国し、同11月に各受け入れ法人に各2名づつが配属され実習が始まった。

リガーレグループとして受け入れ3法人は、実習生の生活上のサポートや育成状況の共有を図り、実習生が不安なく学び介護技術の習得ができると共に、約1年後の日本語検定の合格を目指して情報共有をするため「リガーレグループ外国人技能実習生受け入れ施設ミーティング」を開催している。このミーティングには、NTトータルケア担当者、技能実習生自身も参加し、NTトータルケア担当者による実習生たちへの聞き取りが行われた。この聞き取りでは、6名ともに現場実習、生活面共に大きな問題はないとのことであった。また、このミーティングの機会が、それぞれ離れた法人で実習を行っている6名が顔を合わせて励ましあう貴重な機会になっており、実習生たちはとても安心した表情を見せた。

このような情報共有の機会を持ち、実習生の育成について話し合えることはグループだからこそできるシステムで、実習生の育成に大いにプラスに働くことと考えられる。

今後も定期的にミーティングを開催し、情報の共有と実習生の育成、ケアを進めていく事となる。

「リガーレグループ外国人技能実習生受け入れ施設ミーティング」

第1回	令和元年10月8日（火）	社会福祉法人端山園 ヴィラ端山
第2回	令和元年12月19日（木）	社会福祉法人端山園 ヴィラ端山

※第3回 令和2年3月13日（金）に予定していたが、感染症の影響により中止

(6) まとめ

これまでの活動を引継ぎ、ブラッシュアップをしてきたものにリクルーターチームの活動やおもてなしバスツアー、FACE to FUKUSHI 主催のフェアに参加すること、広報紙COCOLOの発刊、コンセプトブックの更新などがあるが、いずれも学生や求職者の視点を大切に、専門的になりすぎず説明しやすいシンプルさを意識してきた。

活動の中でとりわけリクルーターチームのメンバーの成長は著しく、自分たちの考えるリガーレグループのイメージを言語化して、自分たちの体験を飾らない言葉で学生たちに伝えることができたのは大きな収穫と言える。

就職フェアで出会ったり「おもてなしバスツアー」に参加した学生がリガーレグループに就職し、このリクルーターチームが次の世代へと受け継がれていくとき、グループとしての一体感が深まっていく事となる。

また、今年度新たに発足した各法人の人材担当者の存在は、当初目指した経営陣と若い現場職員を繋ぎ、法人が一体となって取り組む機動力となり、今後のリガーレグループ活動を潤滑に進めるキーマンとしての役割となった。

3、今後に向けて

今年度は、新卒採用に注力し、学生にリガーレグループの活動を知ってもらい、フェアやインターンシップなどにより多くの学生が来てくれることを目指してきた。そのために紙媒体の広報紙やフライヤーなどを作成し広報を行ってきた。

今後に向けて、リガーレグループのホームページアップデートやSNS、動画などを用いて学生がアクセスしやすい環境づくりを進めていきたい。また、より学生のニーズや学ぶに合ったインターンシッププログラムの開発をおこなっていきたい。

さらには、外国人材も含めてリガーレグループに応募してくる人たちが働きやすい職場と感じ定着するような体制整備を進めていく。例えば、リガーレグループにアプローチしてきた人たちがグループ内のどの法人に就職しても研修に参加し、着実に育成され本人自身も成長したと感ずることが出来るシステムを構築していきたい。